

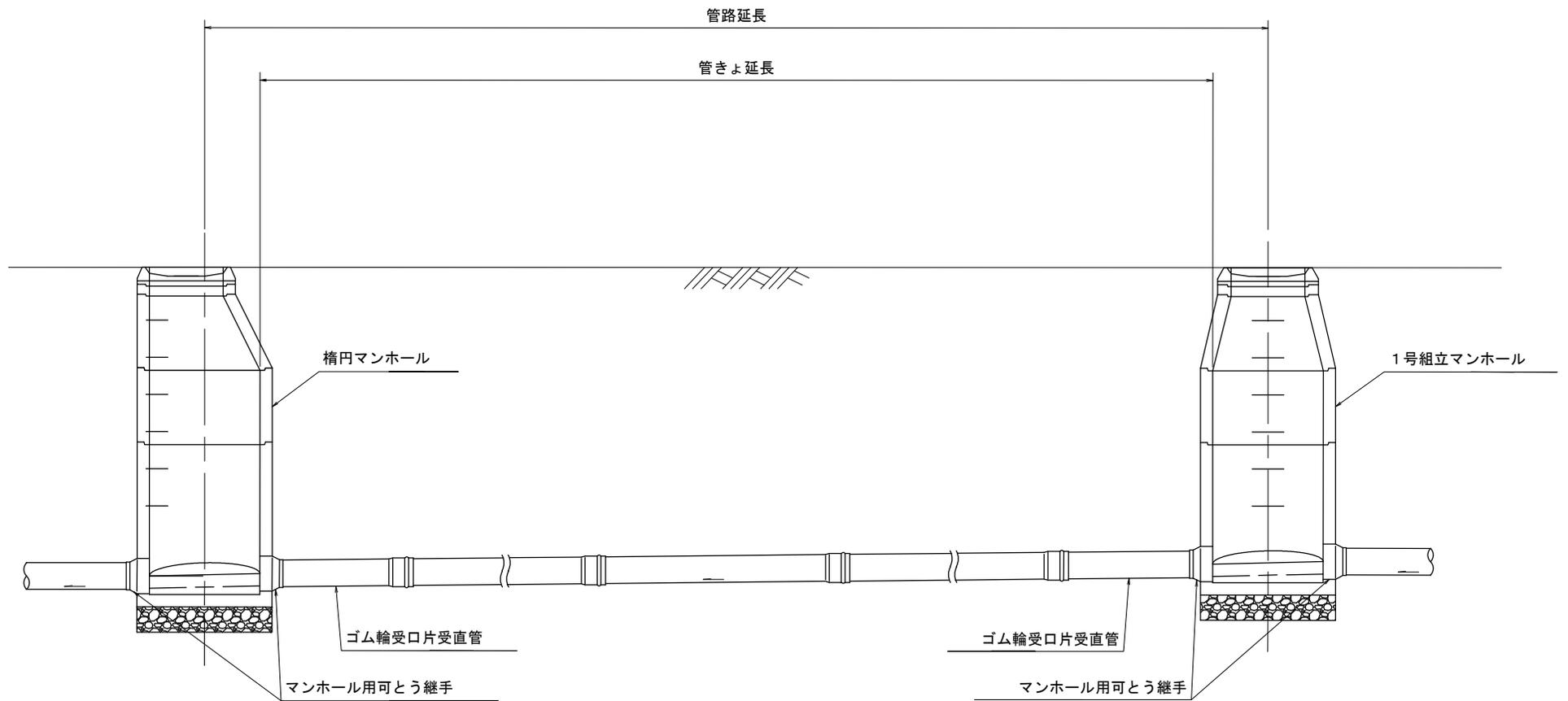
# 下水道施設（管きよ）標準図

倉敷市



管 き よ 布 設 工

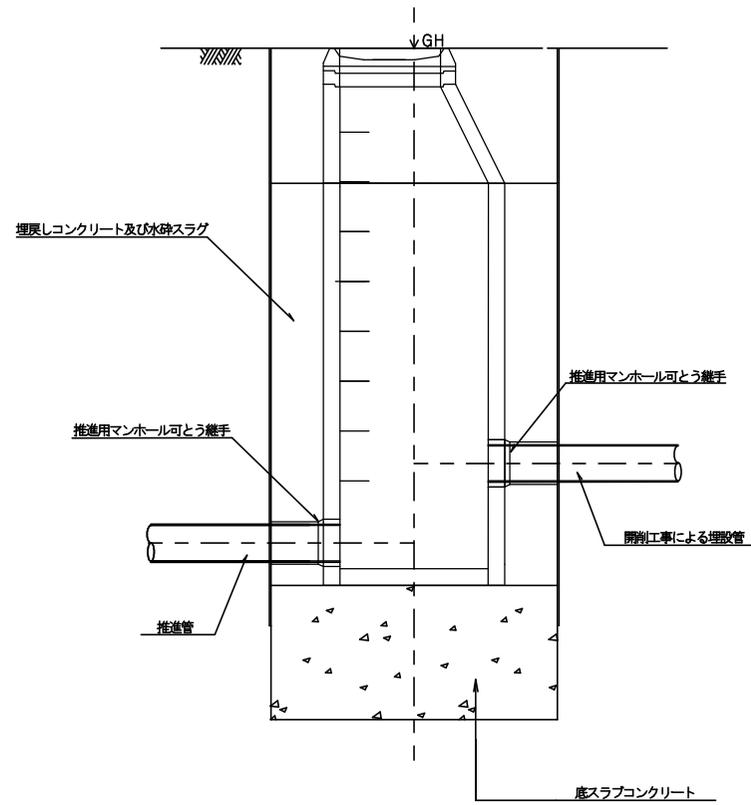
# 断面図



## 運用基準

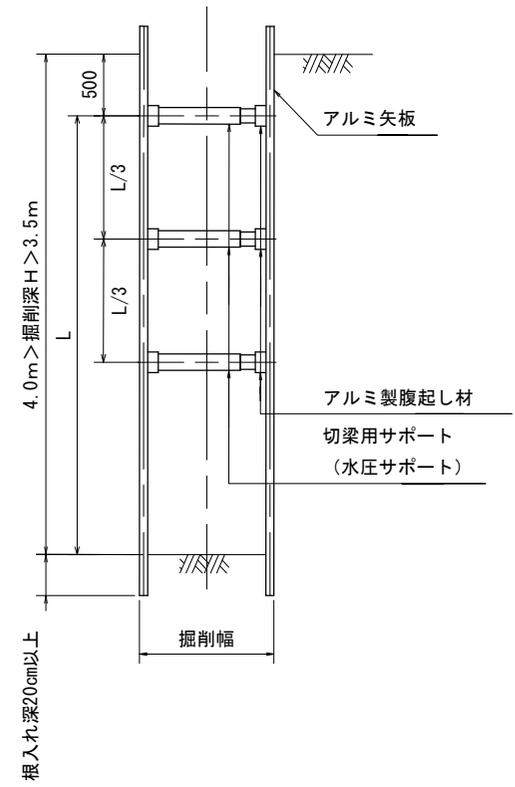
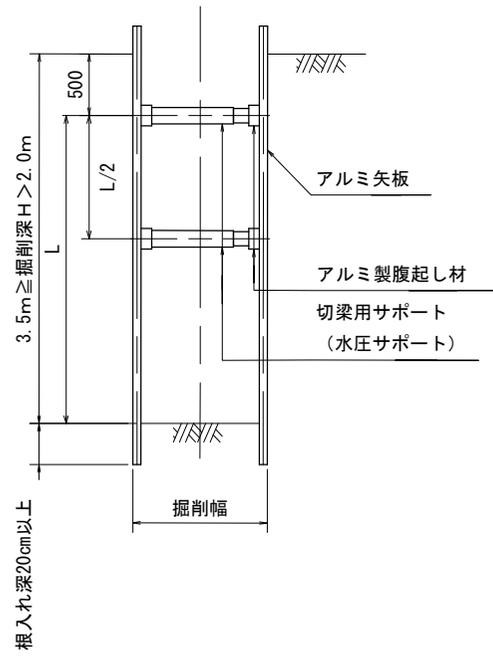
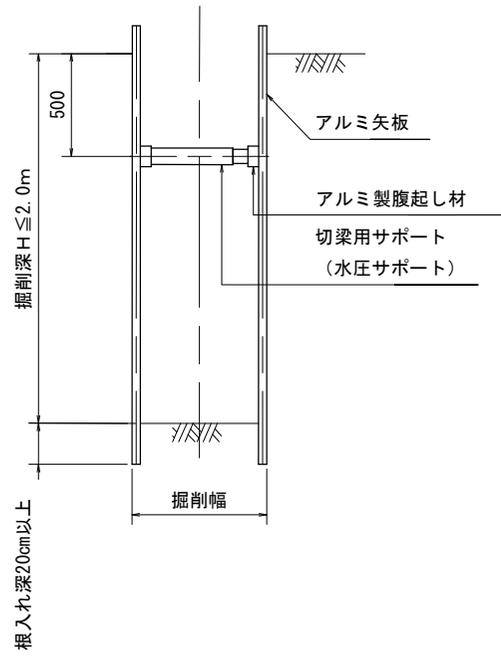
1. 施工上カラーが必要となった場合は、1スパン1個は使用してよい。
2. 本管及び取付管部について埋設シート（茶色）を布設すること。その位置は土被りの1/2付近の2層のうち上側とする。
3. 立坑内へマンホールを設置し、コンクリート及び水砕スラグで埋戻す場合はマンホール継手部の可とう性を確保すること。  
（開削部においても推進用マンホール可とう継手を使用）【I-2参照】

分類	管きょ布設工	図番	I-1
図名	管きょ布設標準図		

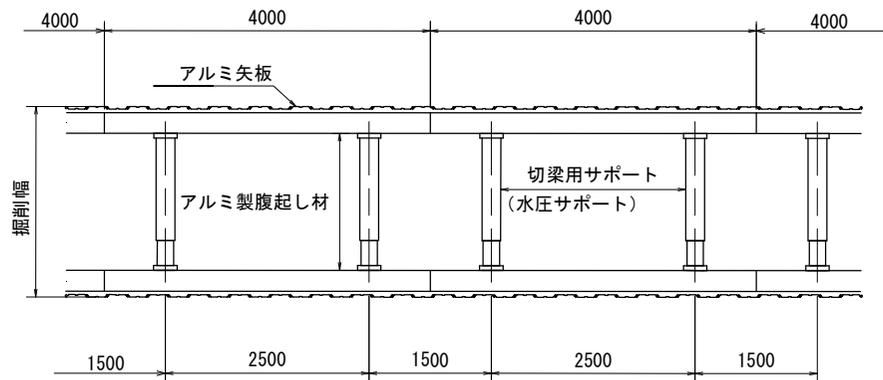


分類	管きょ布設工	図番	I-2
図名	管きょ布設標準図 (立坑内)		

### 断面図



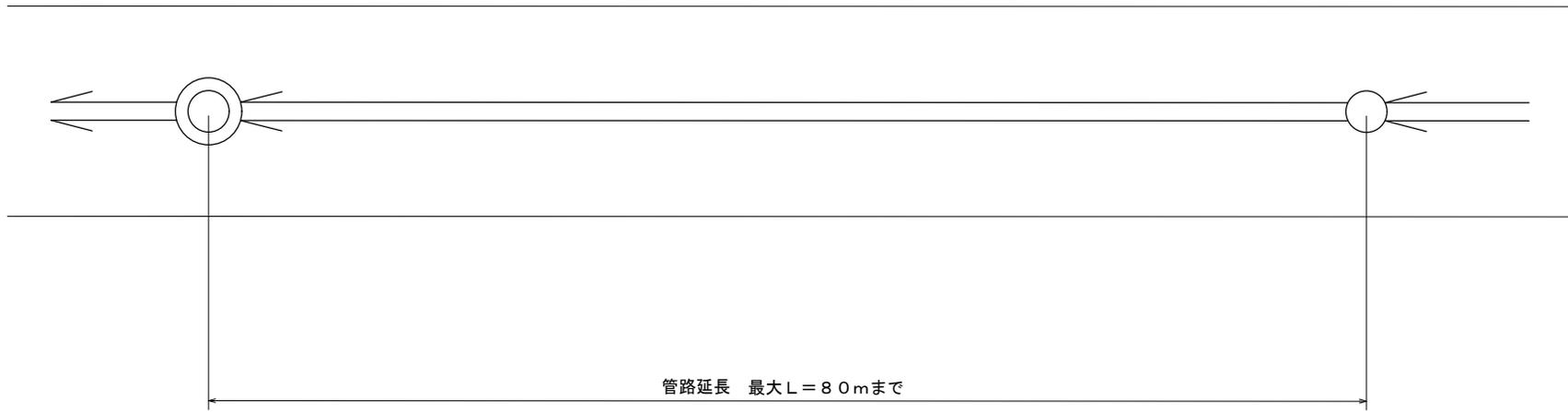
### 平面図



- アルミ製腹起し材  
 (縦120×横120×長さ4,000)  
 (縦115×横125×長さ4,000)  
 (縦130×横110×長さ4,000)

分類	管きょ布設工	図番	I-3
図名	建込み矢板設置標準図		

# 平面図



管路延長 最大L = 80mまで

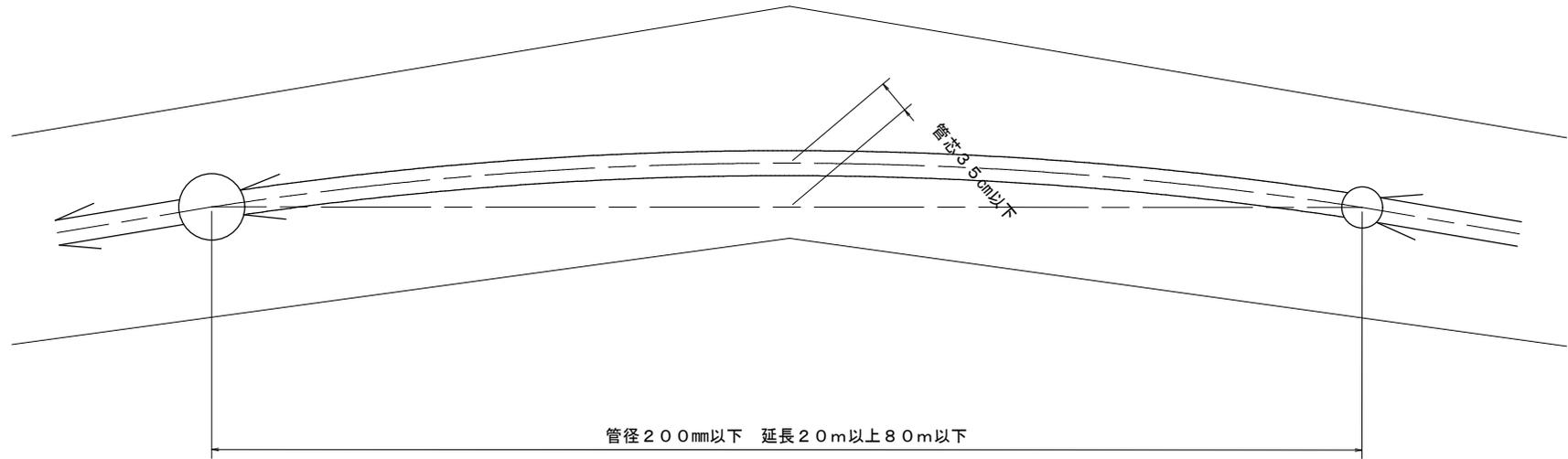
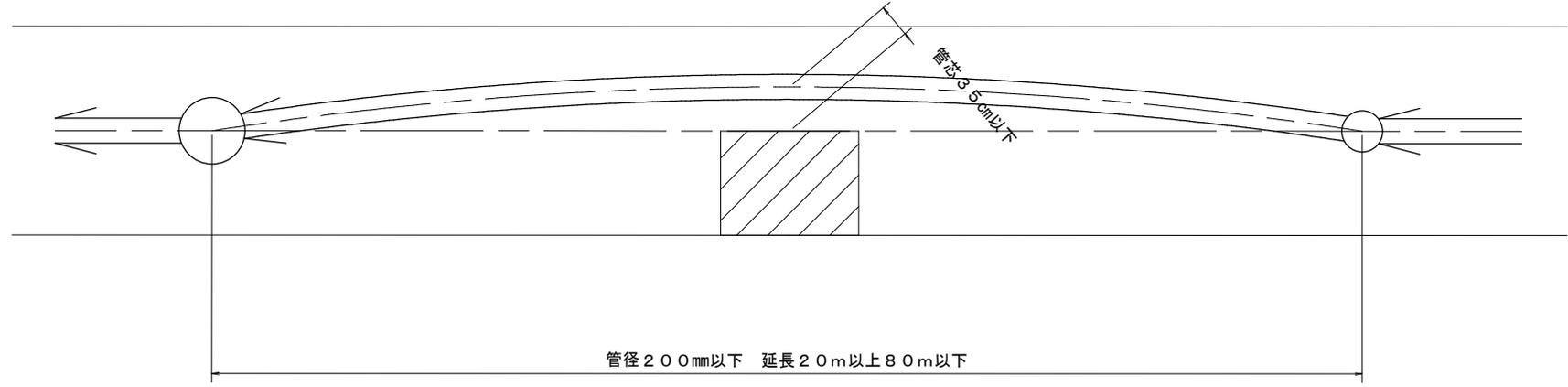
	最小勾配	最小管径
船穂地区	3.5‰	150mm
真備地区	4‰	150mm
上記以外	3‰	200mm

## 運用基準

1. 本管及び取付管部について埋設シート（茶色）を布設すること。その位置は土被りの1/2付近の2層のうち上側とする。

分類	管きよ布設工	図番	I - 4
図名	管きよ布設標準図（管路延長）		

# 平面図

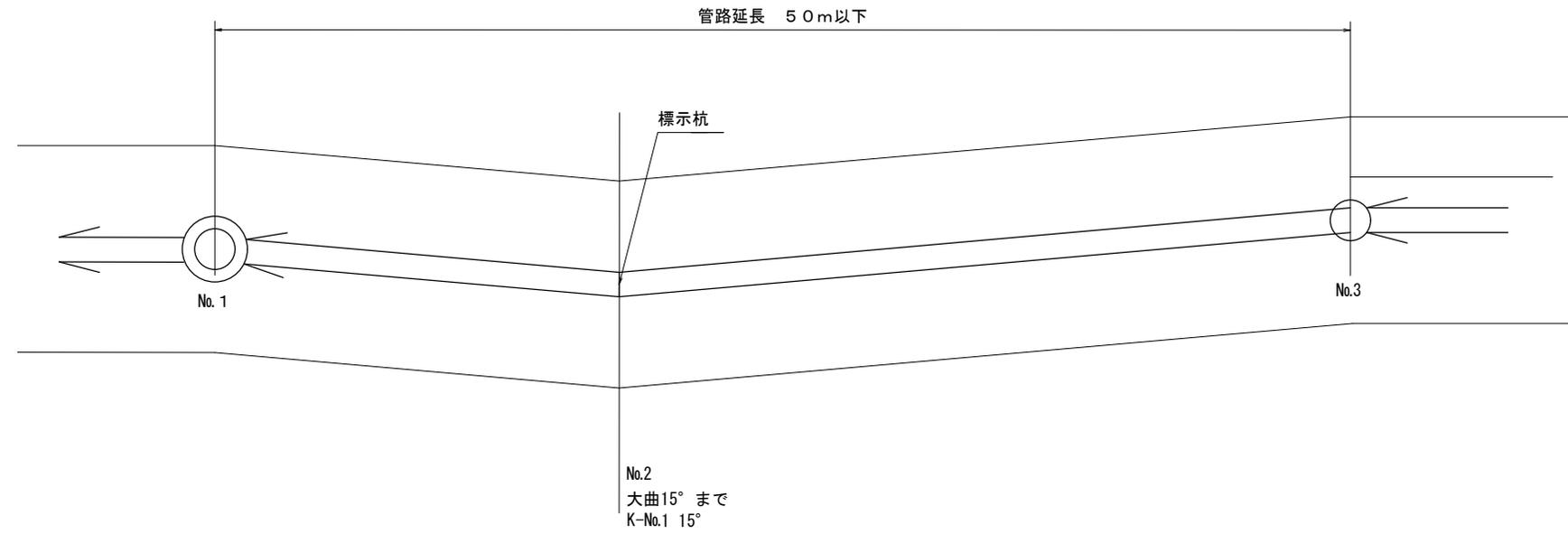


### 運用基準

- マンホール芯を結んだ線から35cmまでなら直管で偏芯させてもよい。
- 本管及び取付管部について埋設シート（茶色）を布設すること。その位置は土被りの1/2付近の2層のうち上側とする。

分類	管きよ布設工	図番	I-5
図名	管きよ布設標準図（偏芯）		

# 平面図



No.2  
 大曲15° まで  
 K-No.1 15°

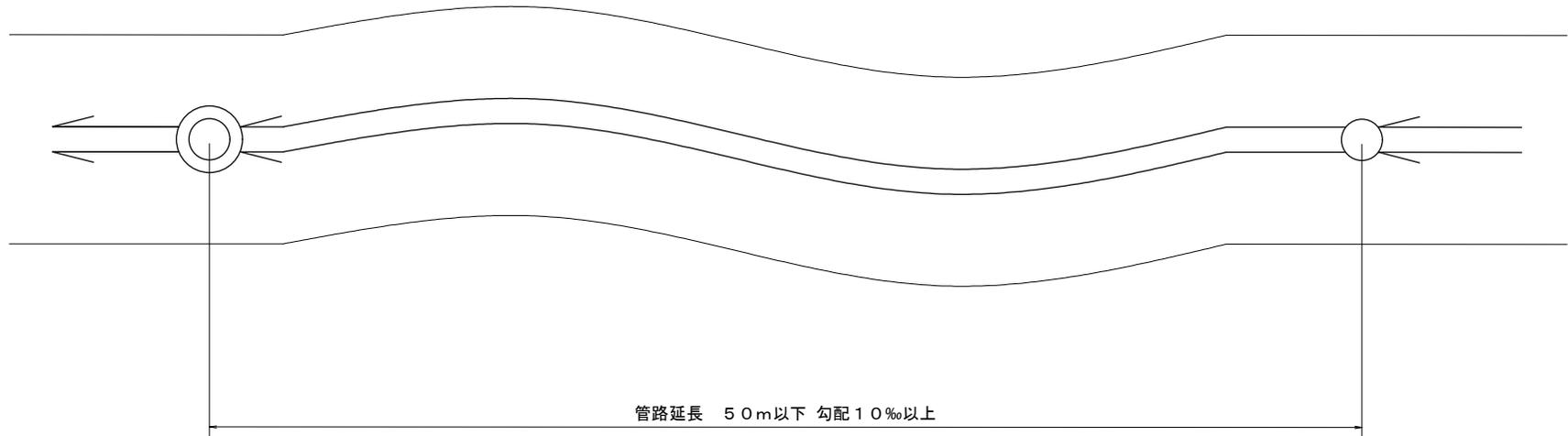
### 運用基準

1. 曲管は原則として使用しない。現場条件によりマンホールを設置できない場合は、1スパンにつき1箇所、大曲15° までを基本とし、維持管理係と協議の上決定する。
2. 曲管は横方向のみに使用。
3. 本管及び取付管部について埋設シート（茶色）を布設すること。その位置は土被りの1/2付近の2層のうち上側とする。

凡	例
◎	人が入れるマンホール
○	人が入れないマンホール (マシンマンホール)

分類	管きょ布設工	図番	I-6
図名	管きょ布設標準図(曲管)		

# 平面図



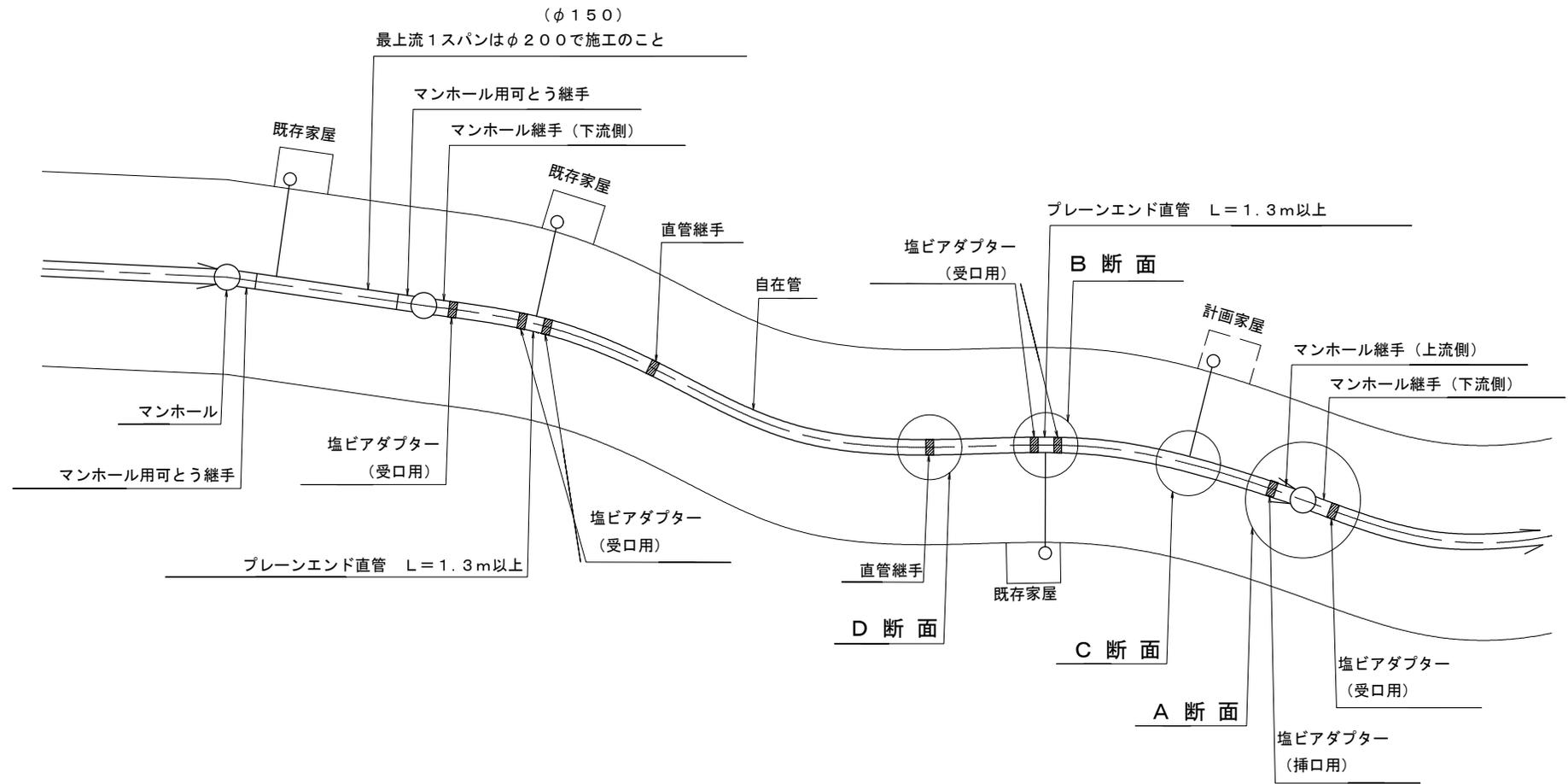
## 運用基準

1. 自在管は縦横に使用してもよい。
2. 道路幅員2m未満についてのみ摘要。
3. 本管及び取付管部について埋設シート（茶色）を布設すること。その位置は土被りの1/2付近の2層のうち上側とする。
4. 完成図面には管路延長の後に（自）と入れること。

凡	例
◎	人が入れるマンホール
○	人が入れないマンホール (マシンマンホール)

分類	管きよ布設工	図番	I-7
図名	管きよ布設標準図(自在管)		

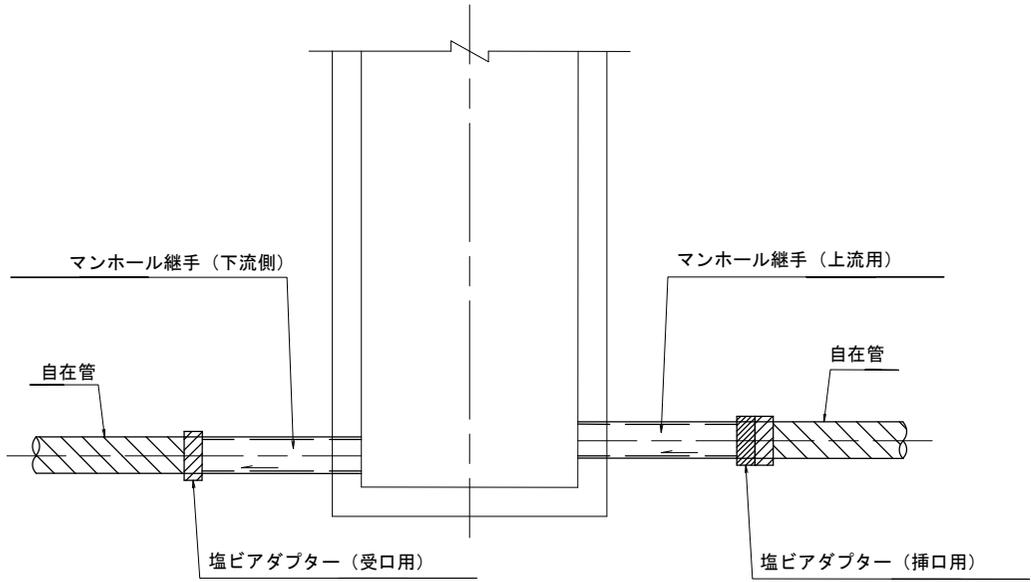
# 平面図



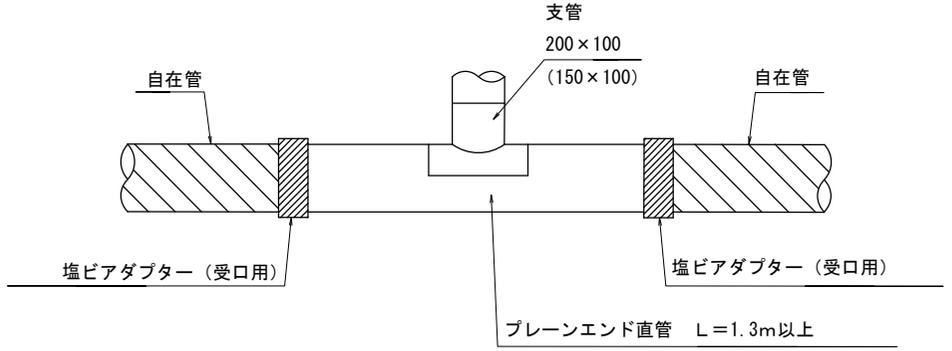
分類	管きょ布設工	図番	I-8
図名	管きょ布設標準図 (自在管)		

# 平面図

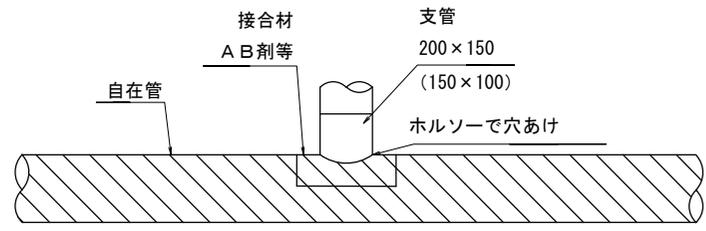
## A 断面



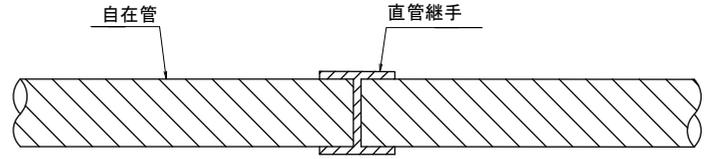
## B 断面



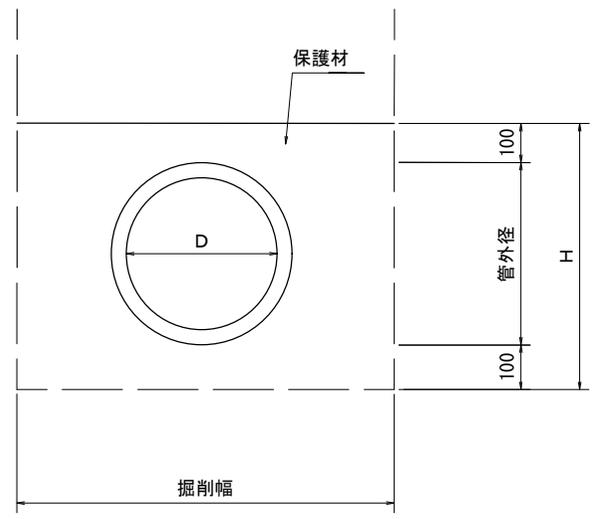
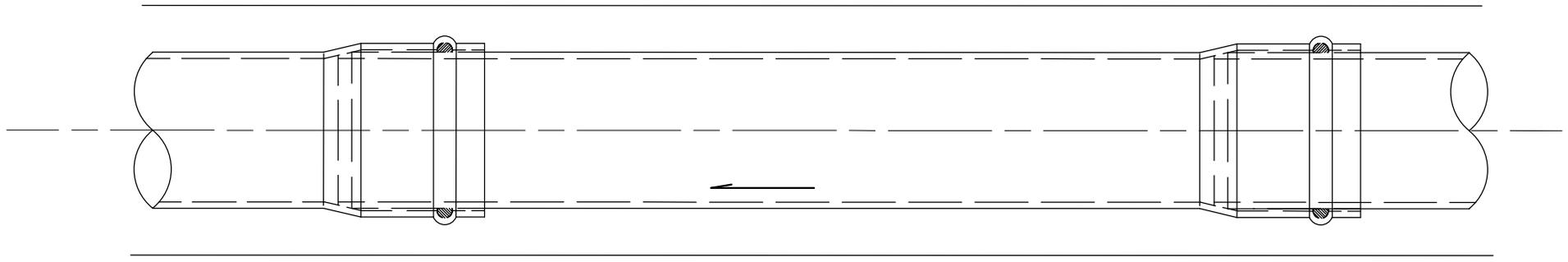
## C 断面



## D 断面

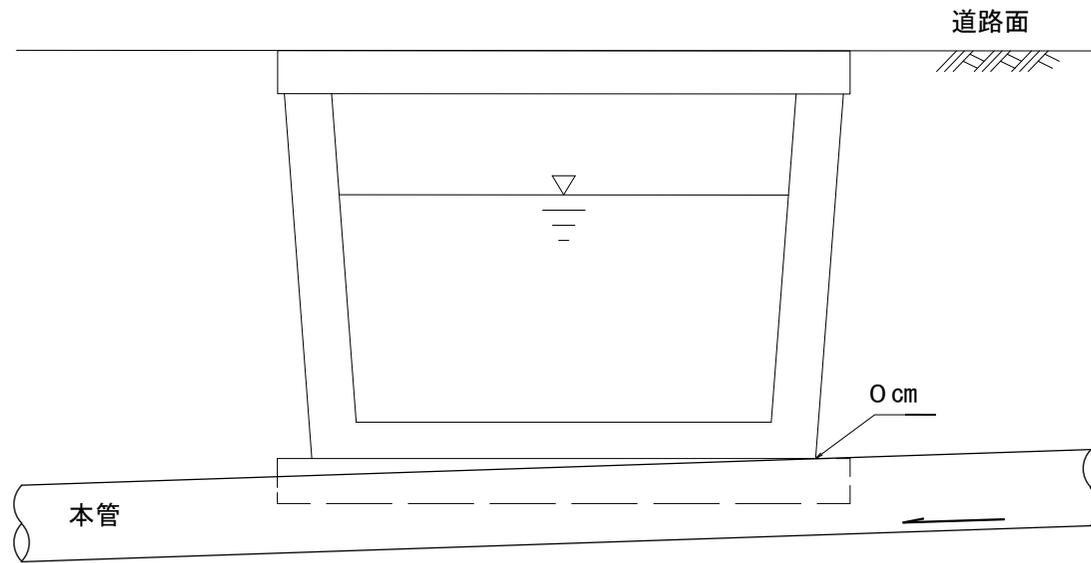


分類	管きょ布設工	図番	I-9
図名	管きょ布設標準図 (自在管)		



分類	管きょ布設工	図番	I-10
図名	硬質塩化ビニル管砂基礎 (360°) 詳細図		

# 平面図

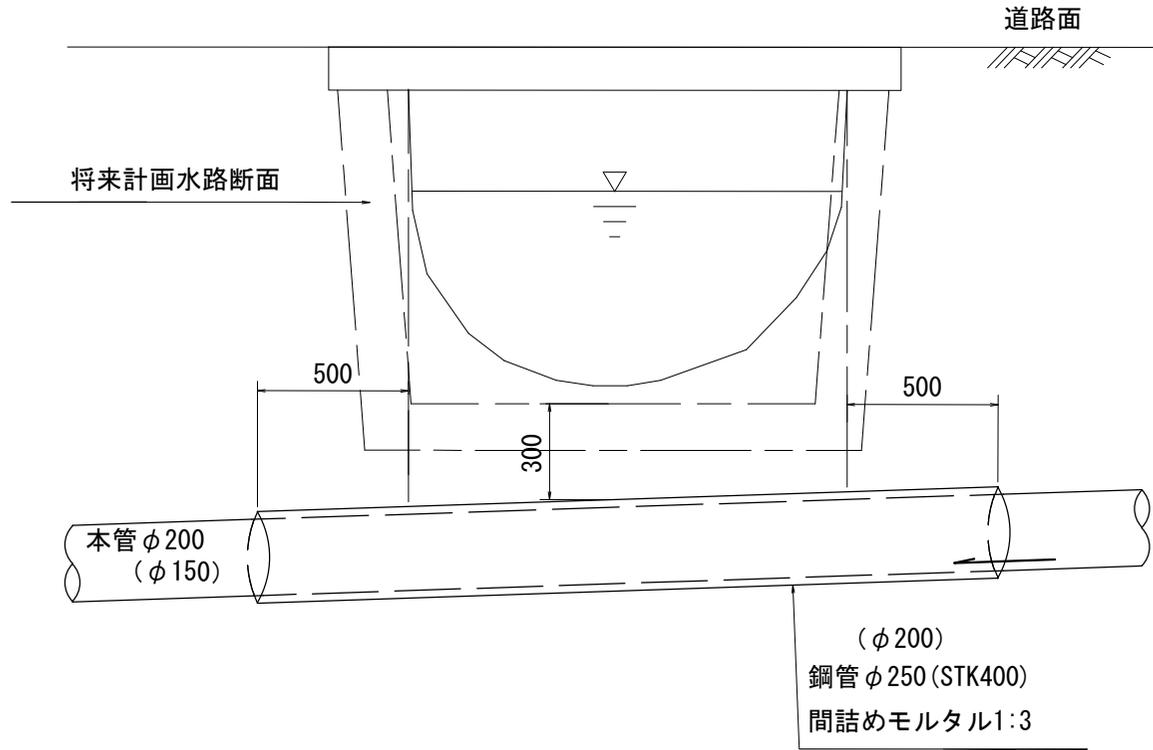


## 運用基準

1. 底張りの下を0cmとし実施する。但し、推進工法のクリアランスは底張りより30cm以上とする。

分類	管きょ布設工	図番	I-11
図名	水路下クリアランス標準図（改良部）		

# 平面図

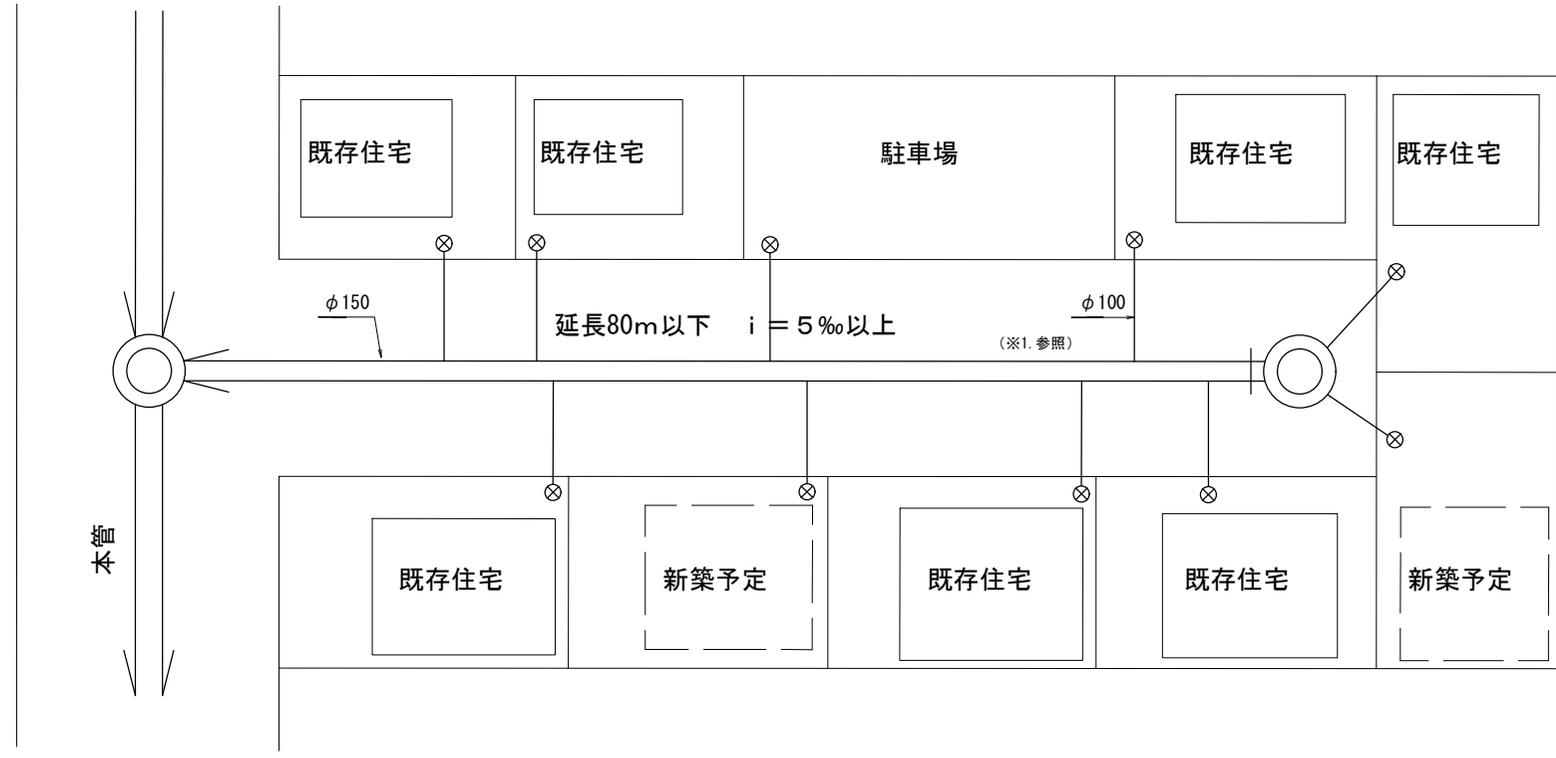


## 運用基準

1. 水路管理者と計画高を協議し決定すること。計画がなければ前後の橋梁か水門の底張り高さを参考に決定する。

分類	管きょ布設工	図番	I-12
図名	水路下クリアランス標準図(未改良部)		

# 平面図



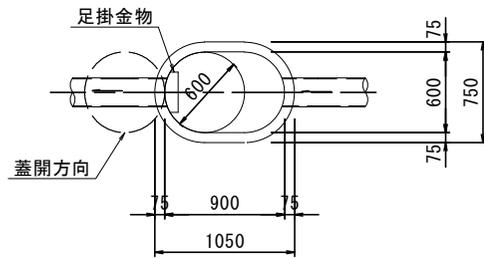
### 運用基準

- 1. 倉敷・水島・玉島・児島地区に適用する。
- 2. 行き止まりであること。
- 3. 新たに開発が見込めないこと。
- 4. 延長は80mまでとし、勾配は5%以上とする。

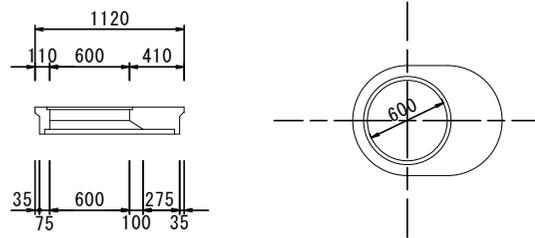
分類	管きょ布設工	図番	I-13
図名	本管φ150mm布設標準図		

マンホール設置工

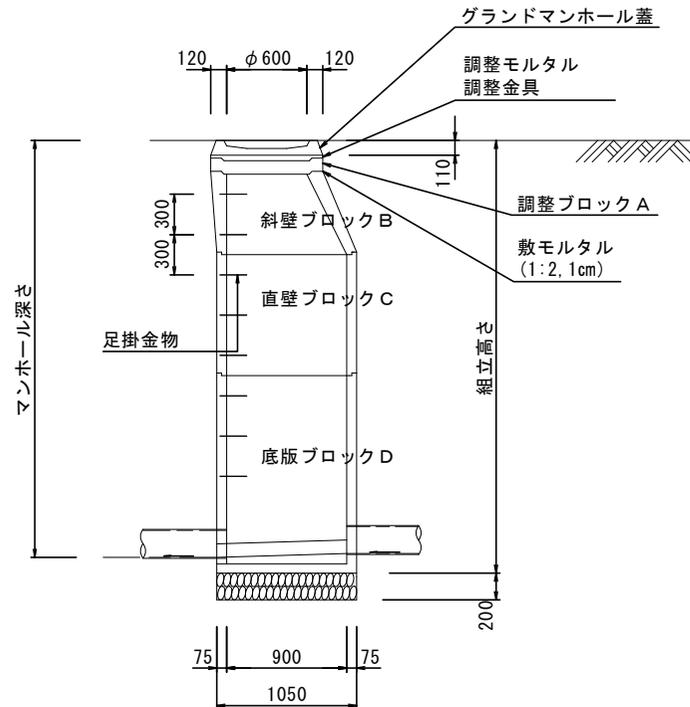
平面図



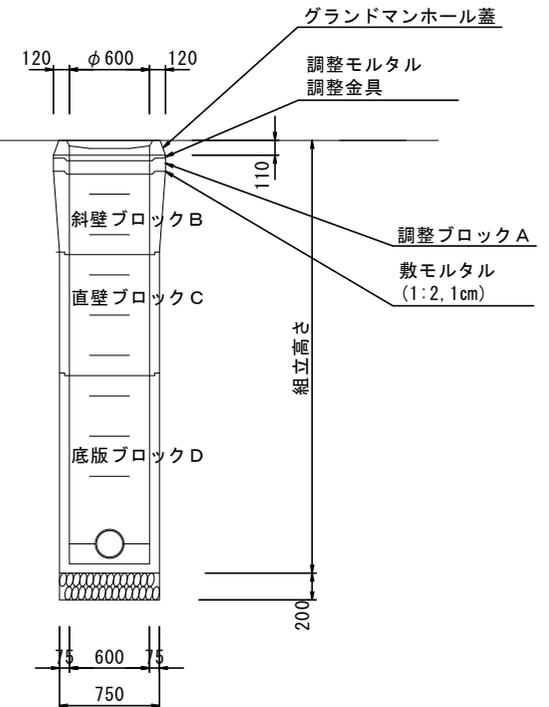
底板ブロック (例)



縦断面図



横断面図



ブロック壁高

種別	1	2	3	4	5	6
A 調整ブロック	50	100	150			
B 斜壁ブロック	450	600				
C 直壁ブロック	200	300	600	900		
D 底板ブロック	670	870	970	1600		

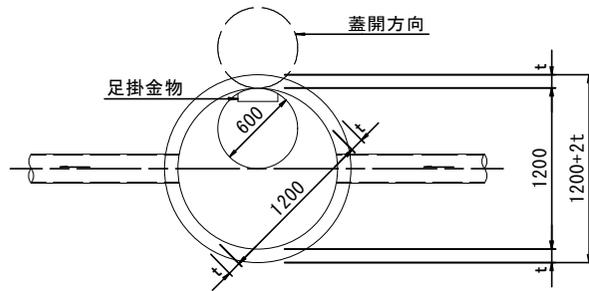
運用基準

- 調整モルタルとは高流動性無収縮早強モルタルであり、調整金具とは受枠変形防止調整金具である。
- 管口には可とう継手を施工すること。

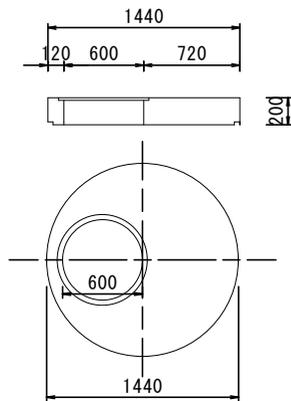
分類	マンホール設置工	図番	II-1
図名	楕円組立マンホール標準図		



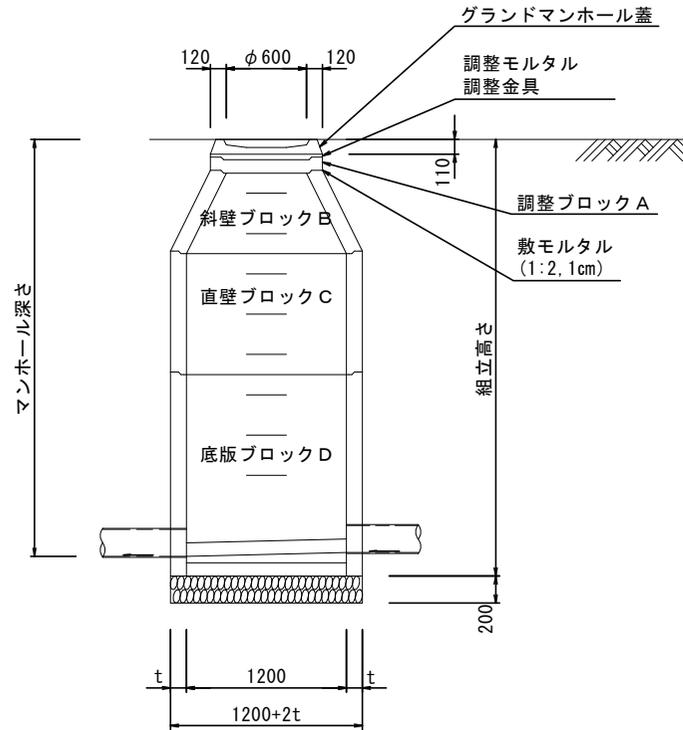
平面図



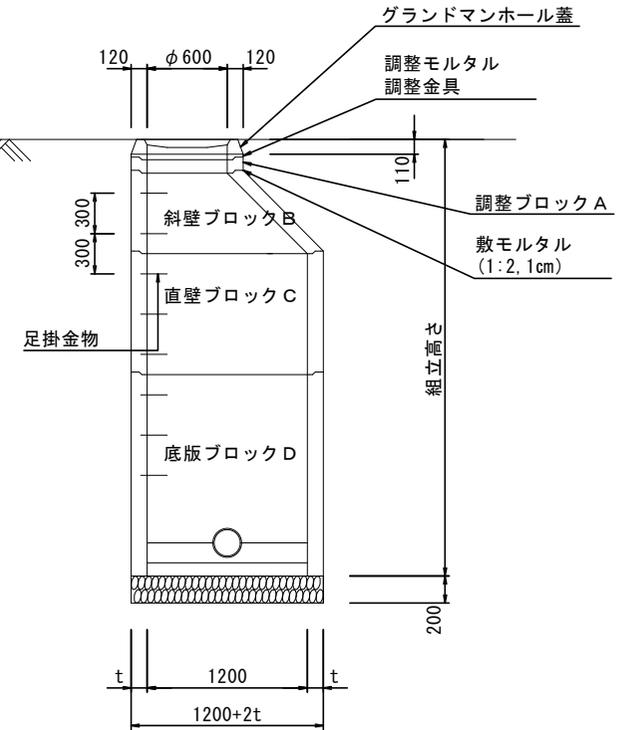
床版ブロック (例)



縦断面図



横断面図



ブロック壁高

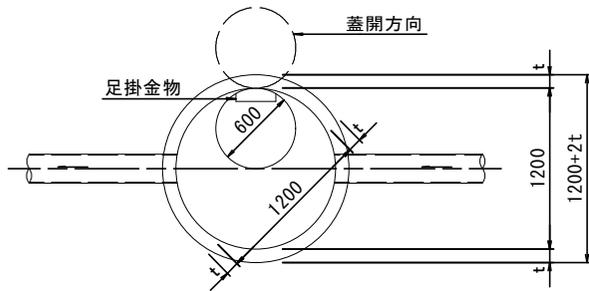
種別	1	2	3	4	5	6	7	8
A 調整ブロック	50	100	150					
B 斜壁ブロック	300	450	600					
C 直壁ブロック	300	600	900	1200	1500	1800	2100	2400
D 底版ブロック	1100	1300	1500	1600	1900			

運用基準

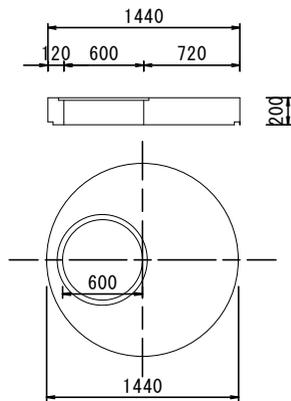
- 調整モルタルとは高流動性無収縮早強モルタルであり、調整金具とは受枠変形防止調整金具である。
- 管口には可とう継手を施工すること。

分類	マンホール設置工	図番	II-3
図名	2号組立マンホール標準図(1)		

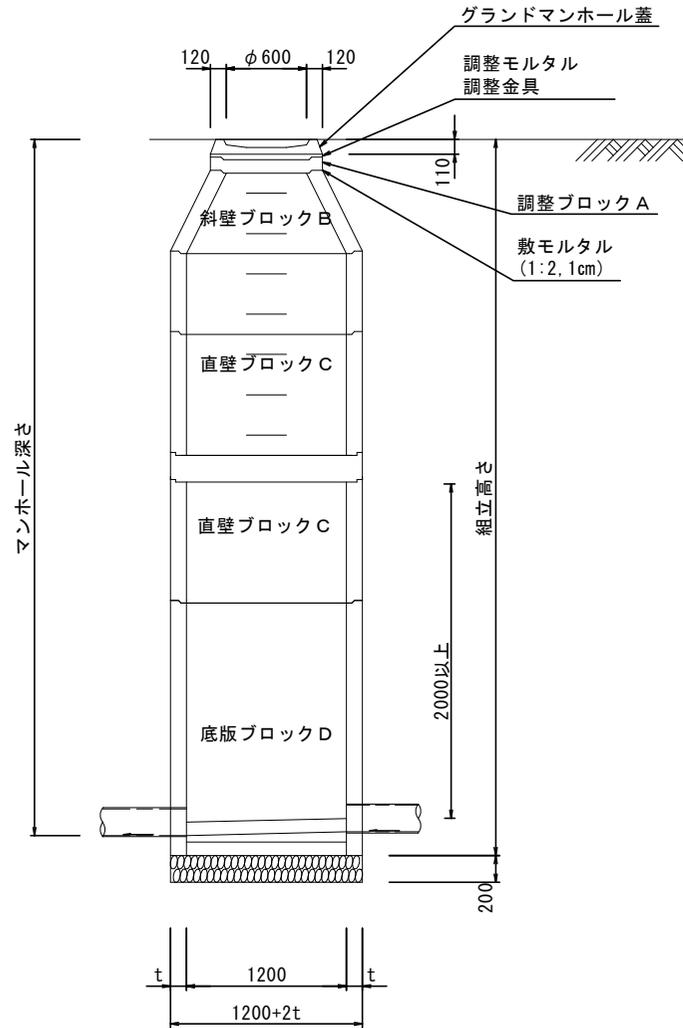
平面図



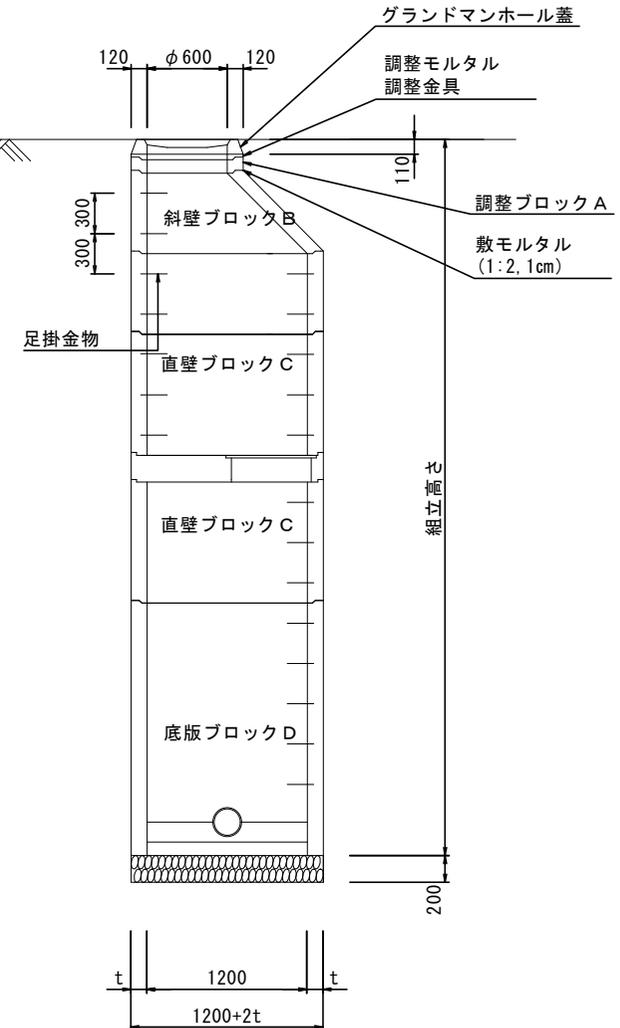
中床版ブロック (例)



縦断面図



横断面図



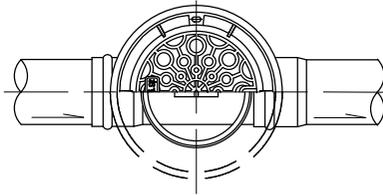
分類	マンホール設置工 (H=5.0m以上)	図番	II-4
図名	2号組立マンホール標準図 (2)		



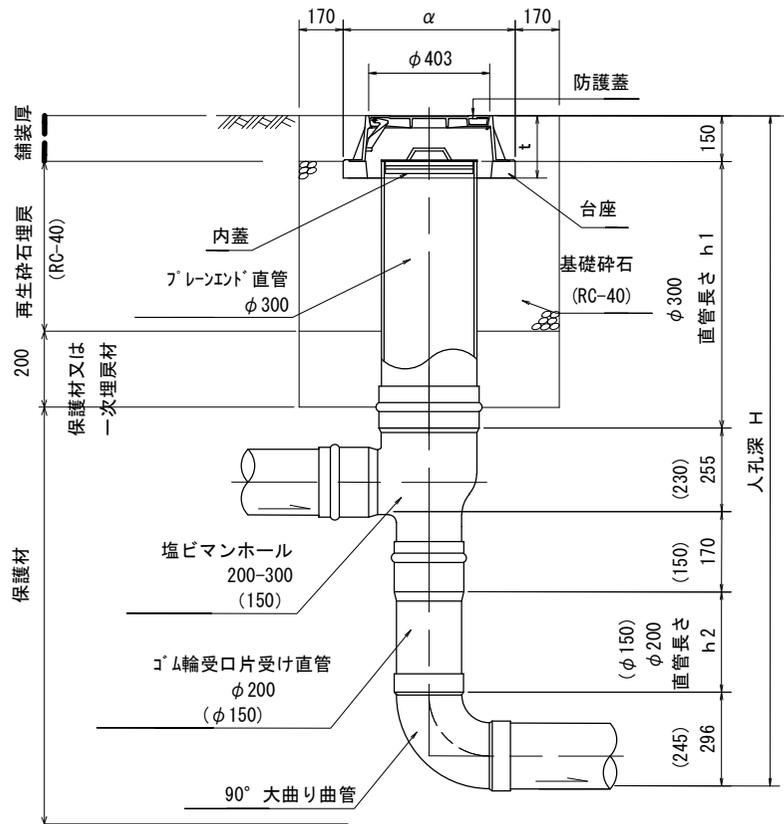
# 落差点

## ドロップ (DR)

### 平面図

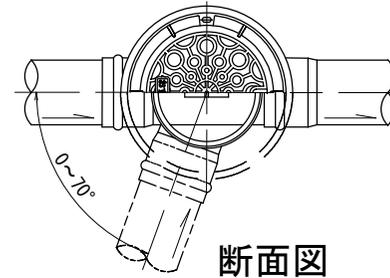


### 断面図

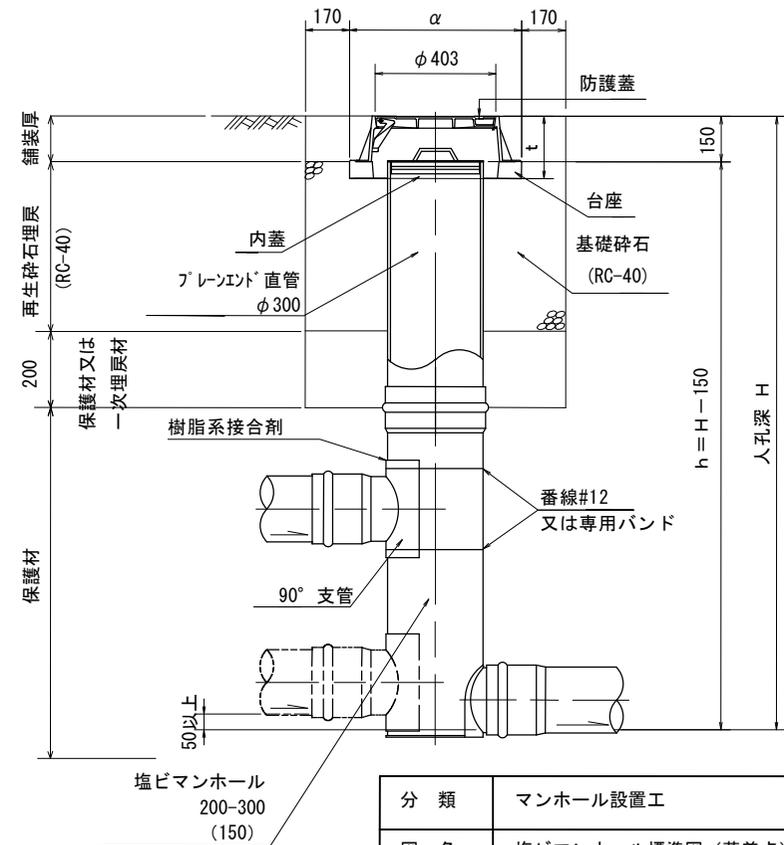


## 起点形ドロップ (KDR)

### 平面図

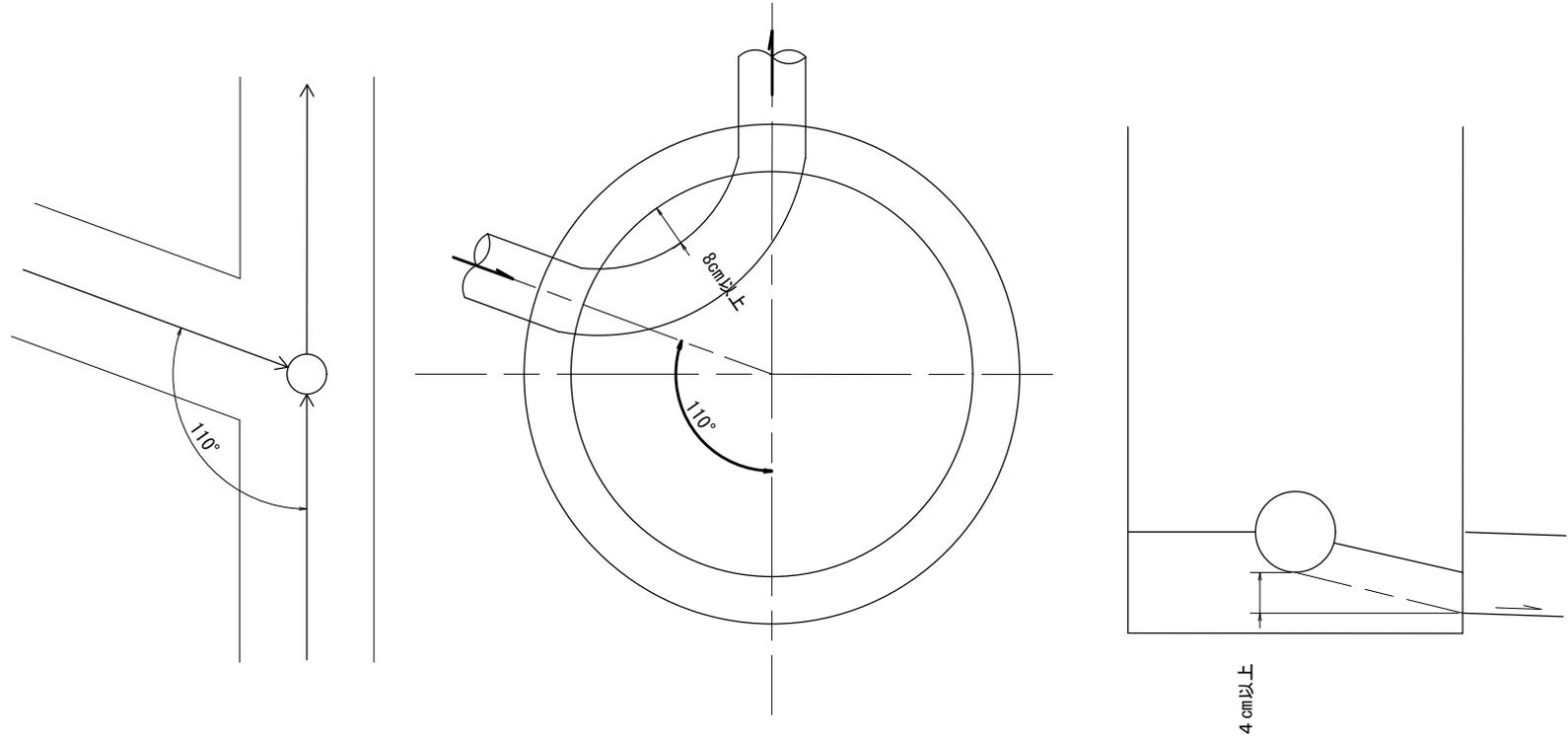


### 断面図



	t
T-14, 25	205
T-8	175

分類	マンホール設置工	図番	II-6
図名	塩ビマンホール標準図 (落差点)		

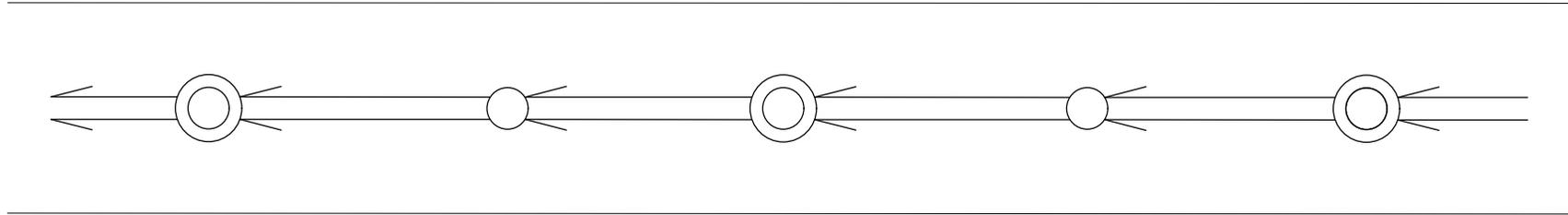


運用基準

- 1. マンホール内段差を 4 cm以上とする。
- 2. マンホール中心接合が可能で内側のインバート幅が 10 cm以上とれること。

分類	マンホール設置工	図番	Ⅱ-7
図名	平面接合標準図（中心交角 110°）		

# 平面図



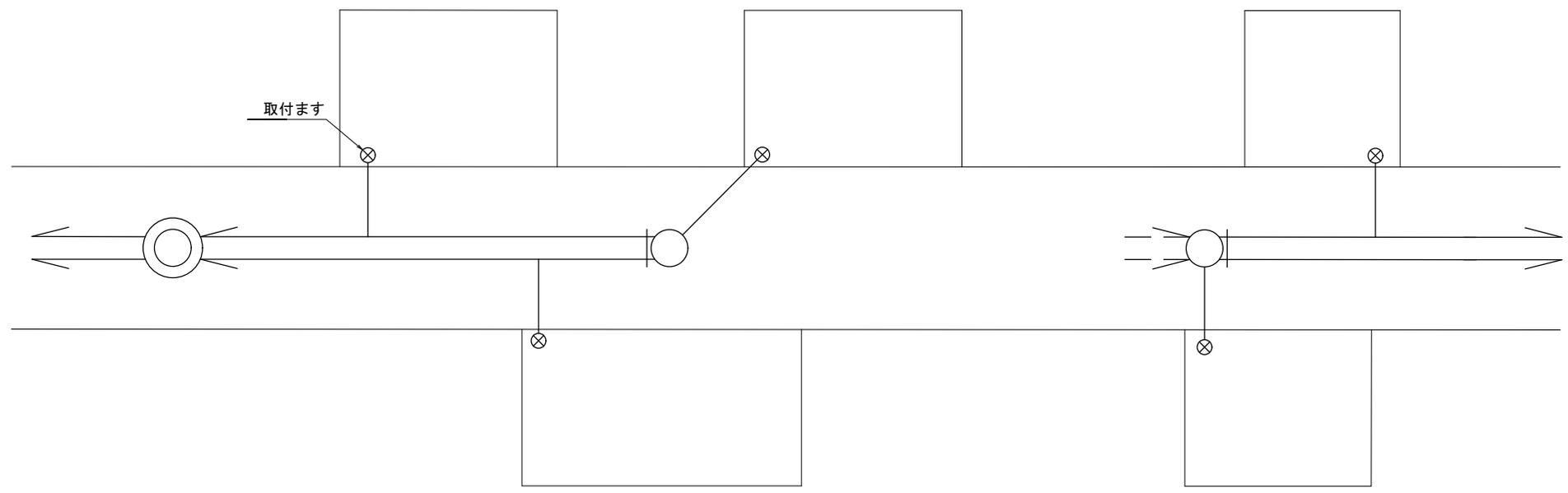
## 運用基準

- マンホール深は3.50m以下とする。
- 道路幅員4.0m未満で、重車両が通行しない道路（国道・県道・都市計画街路を除く）及び歩道。ただし、4.0m以上であっても私道や開発団地の市道編入路線等交通量の少ない道路は使用可能とする。
- 最上流部で将来管きよの延長が見込めない場合はフリーインバートを採用する。上流側に将来計画がある場合は、それに適したものを使用する。
- マンホールと交互に使用し、連続しては使用しない。ただし、現場条件等でマンホールの設置が困難な場合は可能とする。
- 会合点には使用しない。

凡	例
◎	人が入れるマンホール
○	人が入れないマンホール (マシンマンホール)

分類	マンホール設置工	図番	Ⅱ-8
図名	マシンマンホール設置標準図		

# 平面図



凡	例
◎	人が入れるマンホール
○	人が入れないマンホール (マシンマンホール)

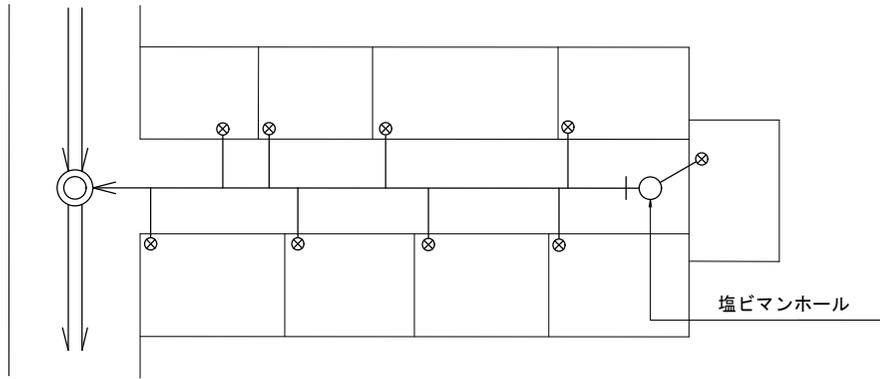
### 運用基準

1. 最上流部のマンホール位置は取付ますの位置で決定する。

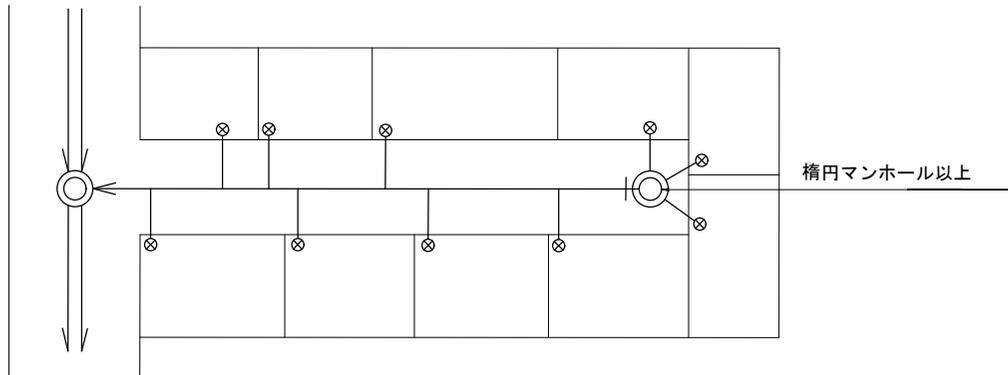
分類	マンホール設置工	図番	Ⅱ-9
図名	最上流部のマンホール設置標準図(1)		

### 平面図

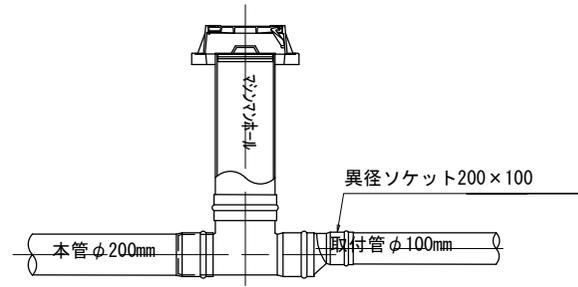
◎行き止まりに取付ますが1箇所の場合



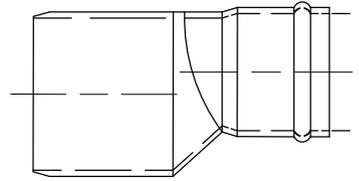
◎行き止まりに取付ますが3箇所の場合



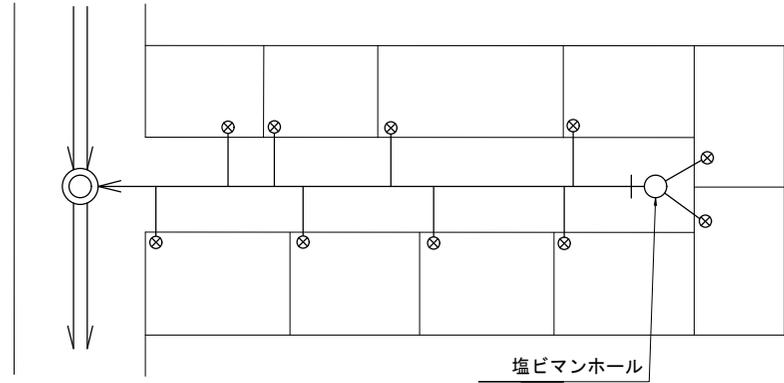
### 断面図



### 異径ソケット



◎行き止まりに取付ますが2箇所の場合



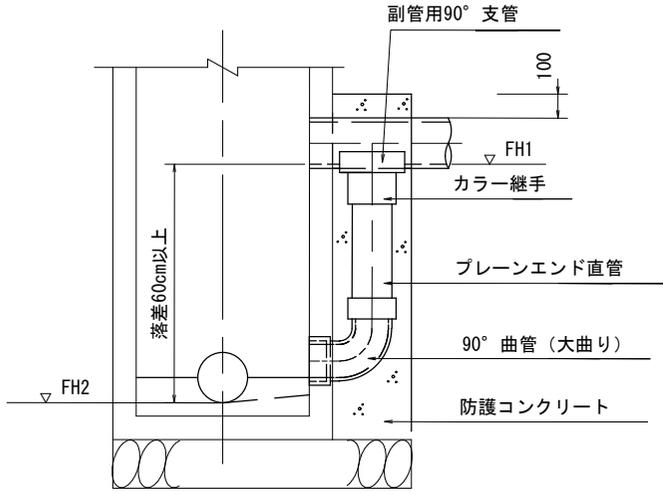
#### 運用基準

1. 本管が200mmの場合は、塩ビマンホール受口が200mmなので異径ソケット（200×100）を使用する。
2. マシンマンホールは基本的にはフリーインパートとする。

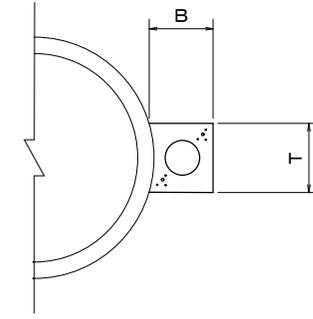
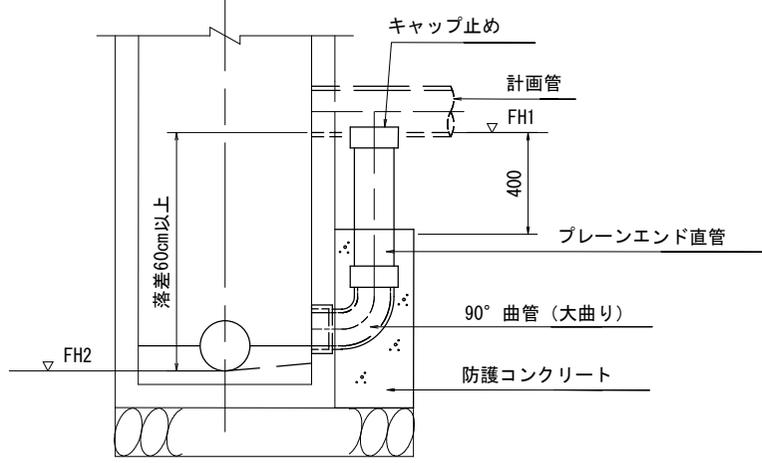
凡	例
◎	人が入れるマンホール
○	人が入れないマンホール (マシンマンホール)

分類	マンホール設置工	図番	Ⅱ-10
図名	最上流部のマンホール設置標準図(2)		

### Aタイプ

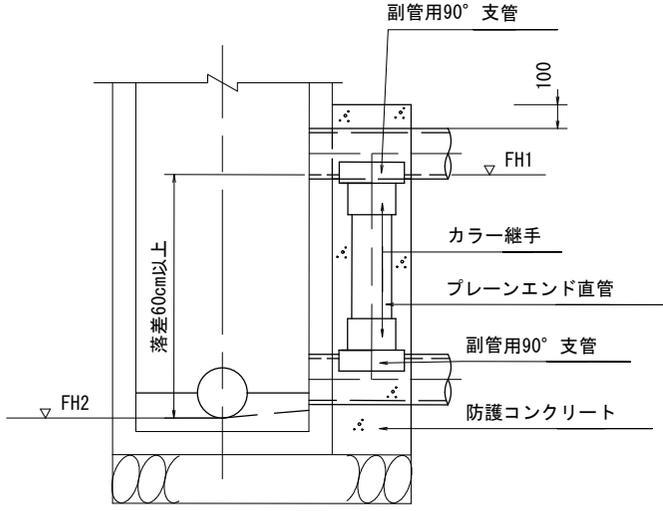


### Bタイプ

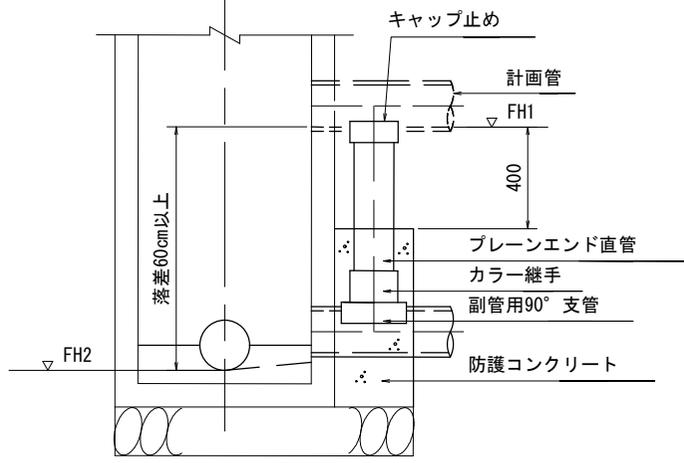


副管径 (mm)	B (mm)	T (mm)
100	300	300
150	350	350
200	400	400
250	450	450

### Cタイプ

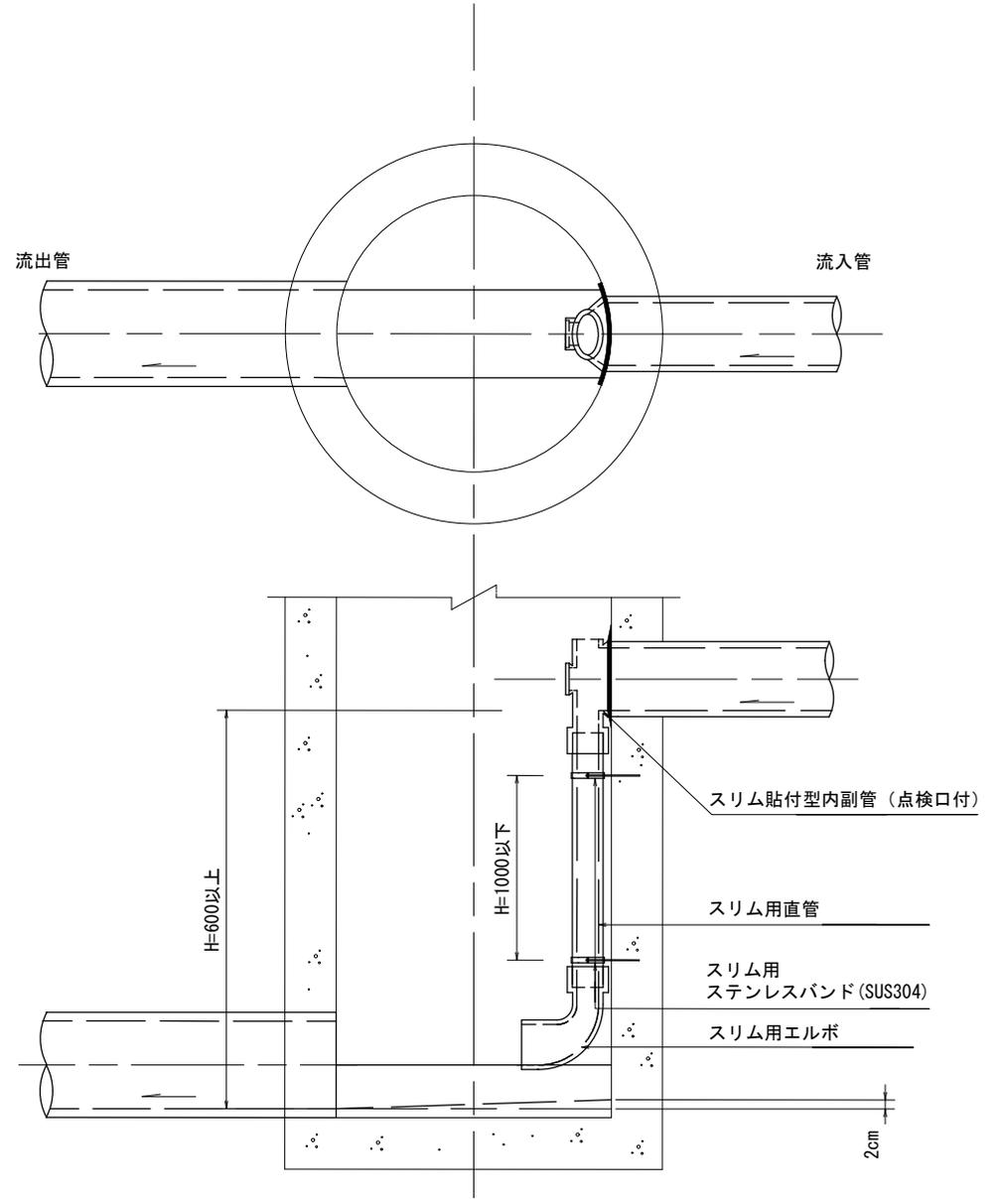
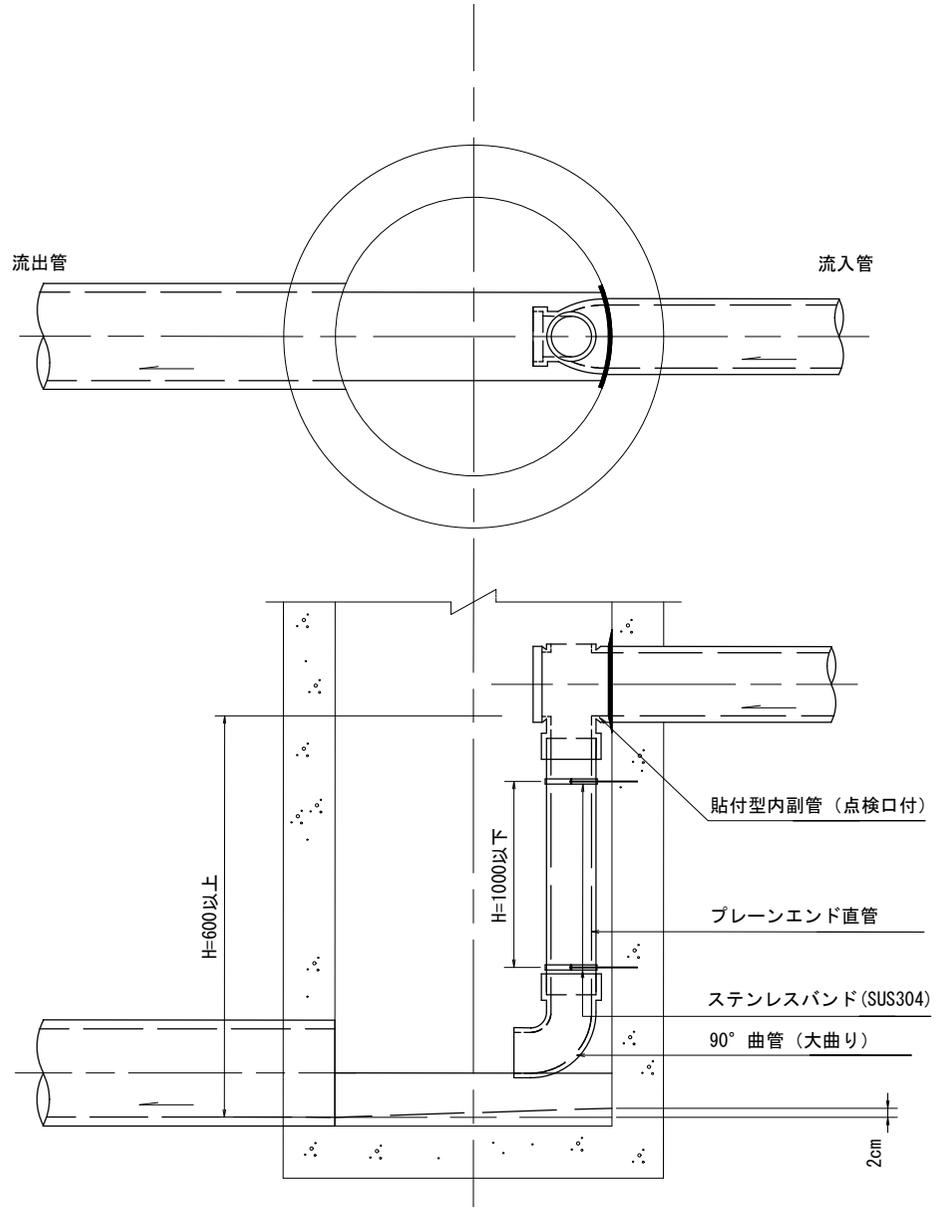


### Dタイプ



分類	マンホール設置工	図番	II-11
図名	副管設置標準図(外副管)		

# 断面図

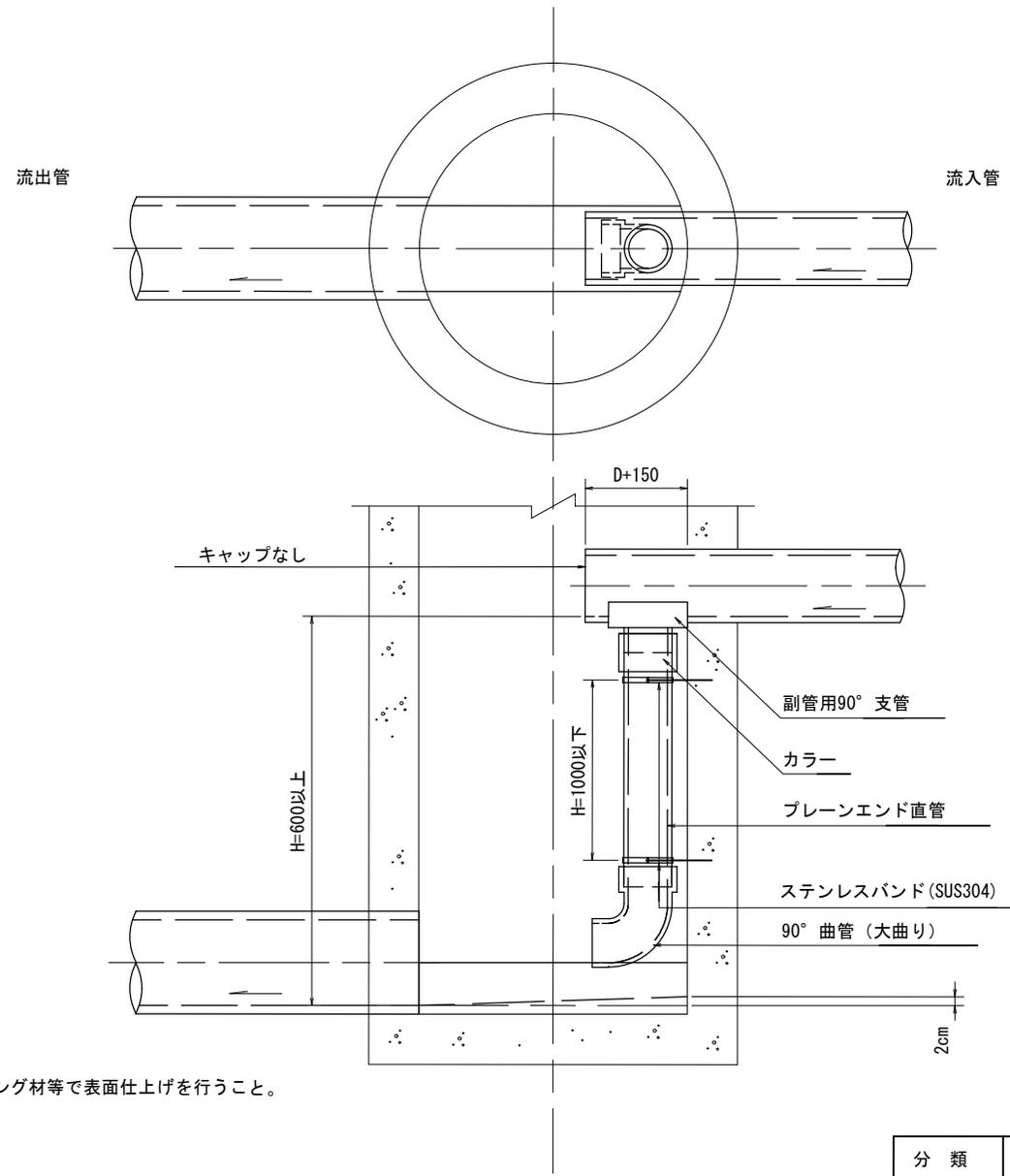


### 運用基準

1. スリム貼付型内副管は流入管径φ200・副管径φ150のみ対応可
2. ステンレスバンド取付のためのMH削孔部はコーキング材等で表面仕上げを行うこと。

分類	マンホール設置工	図番	II-12
図名	副管設置標準図 (貼付型内副管)		

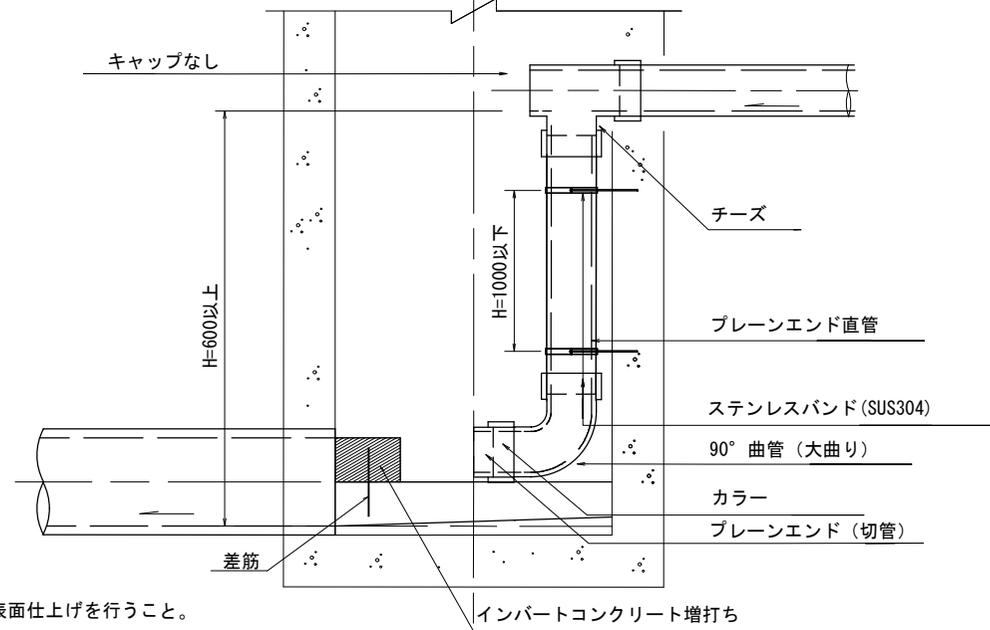
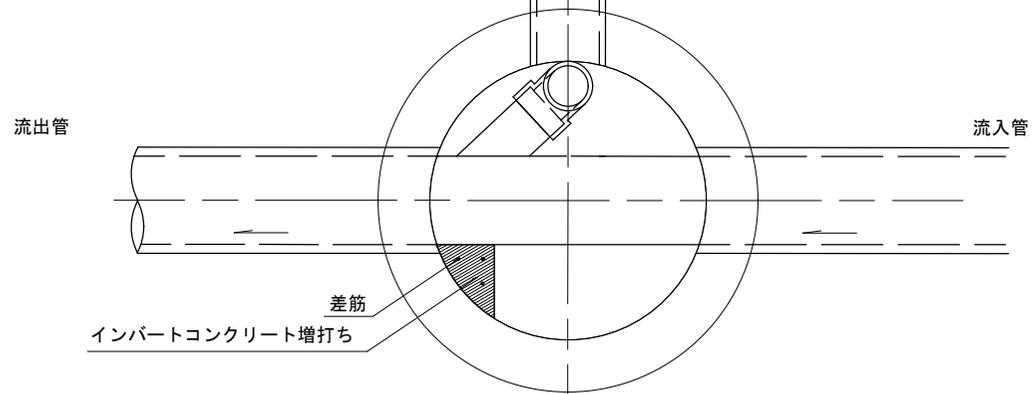
# 断面図



1. ステンレスバンド取付のためのMH削孔部はコーキング材等で表面仕上げを行うこと。

分類	マンホール設置工	図番	II-13
図名	副管設置標準図 (内副管・参考)		

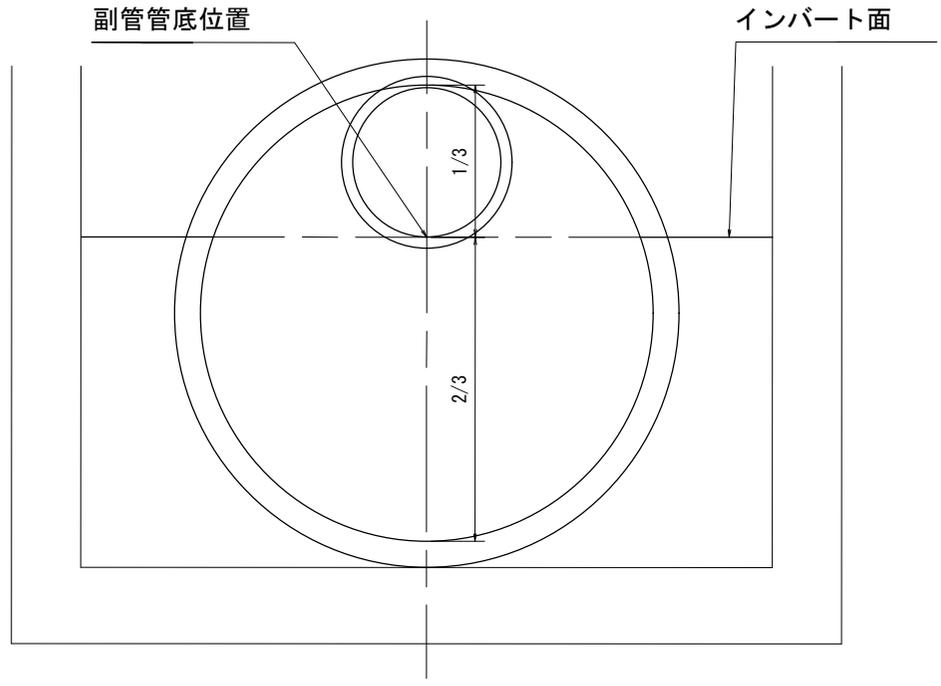
断面図



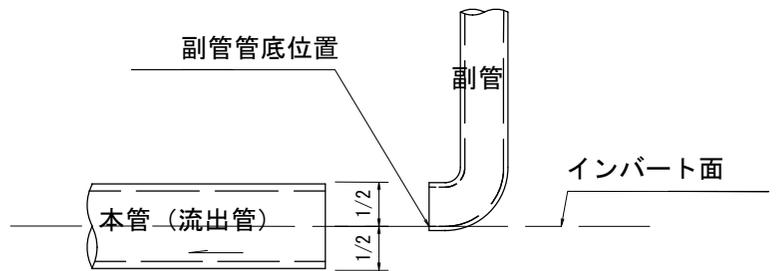
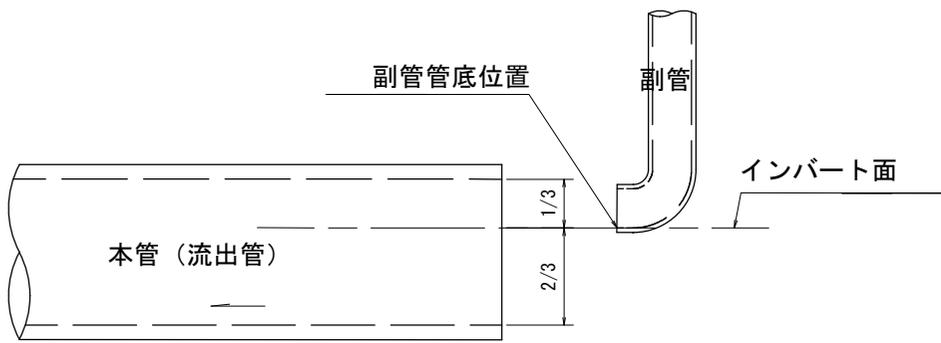
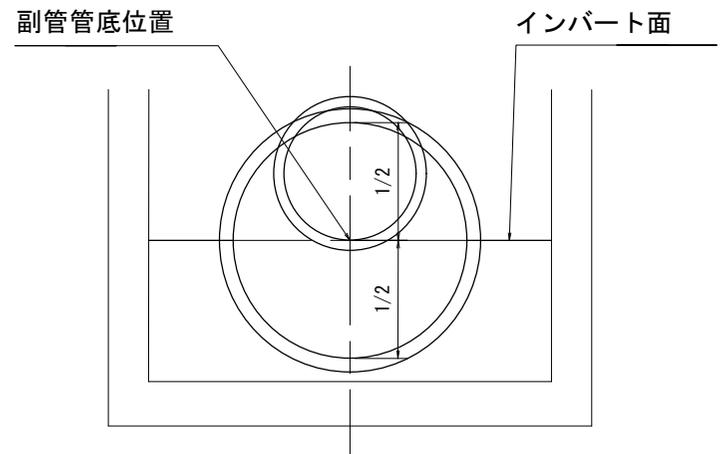
1. ステンレスバンド取付のためのMH削孔部はコーキング材等で表面仕上げを行うこと。
2. 下流管路方向へ90° 曲管を振ること。
3. 副管の反対側のインバート上に差筋及びインバートコンクリートの増打ちを行うこと。

分類	マンホール設置工	図番	II-14
図名	副管設置標準図(取付管用内副管)		

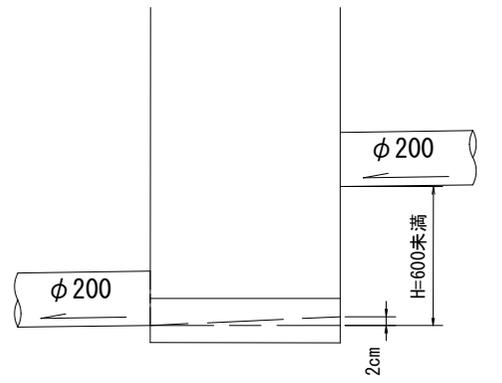
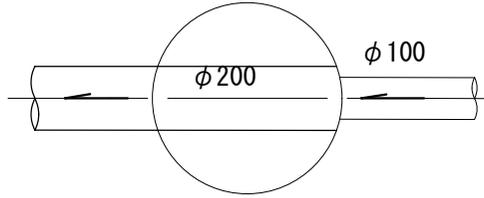
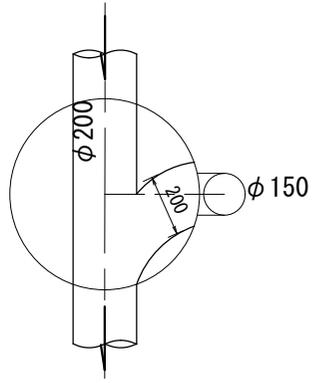
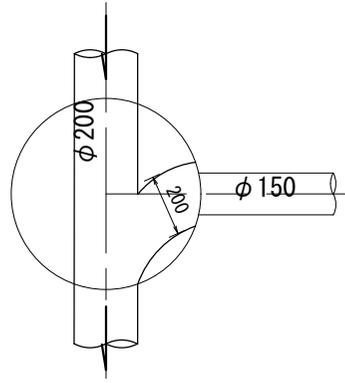
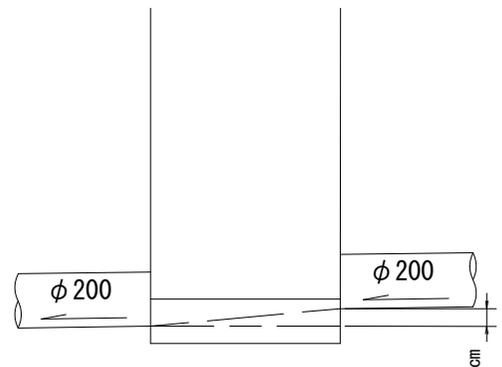
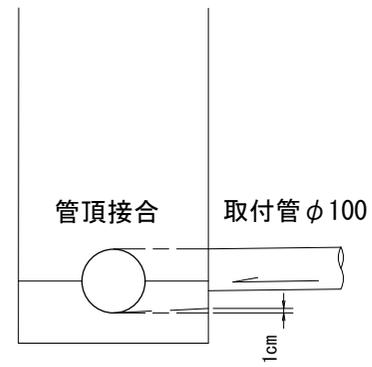
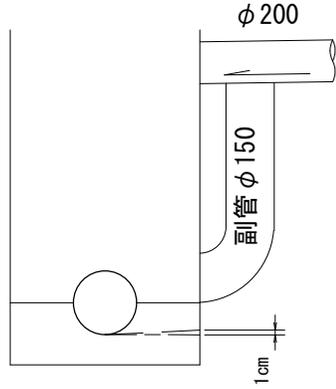
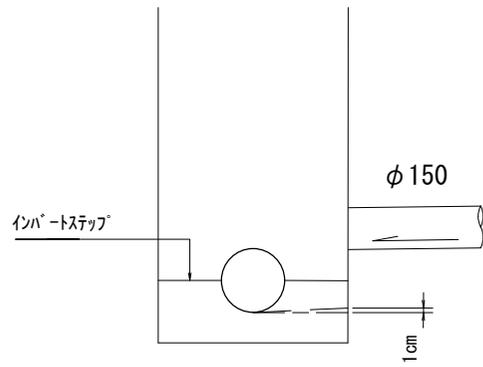
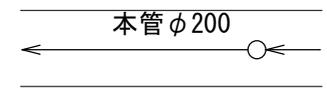
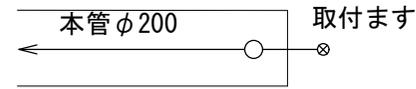
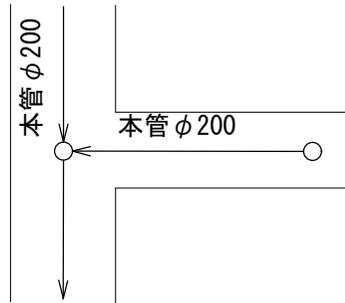
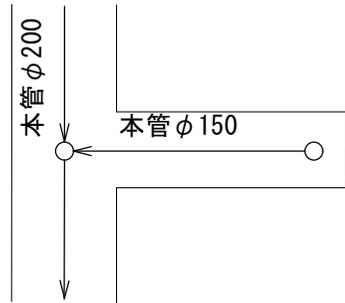
φ 700以上



φ 600以下



分類	マンホール設置工	図番	Ⅱ-15
図名	副管・インバート設置標準図		

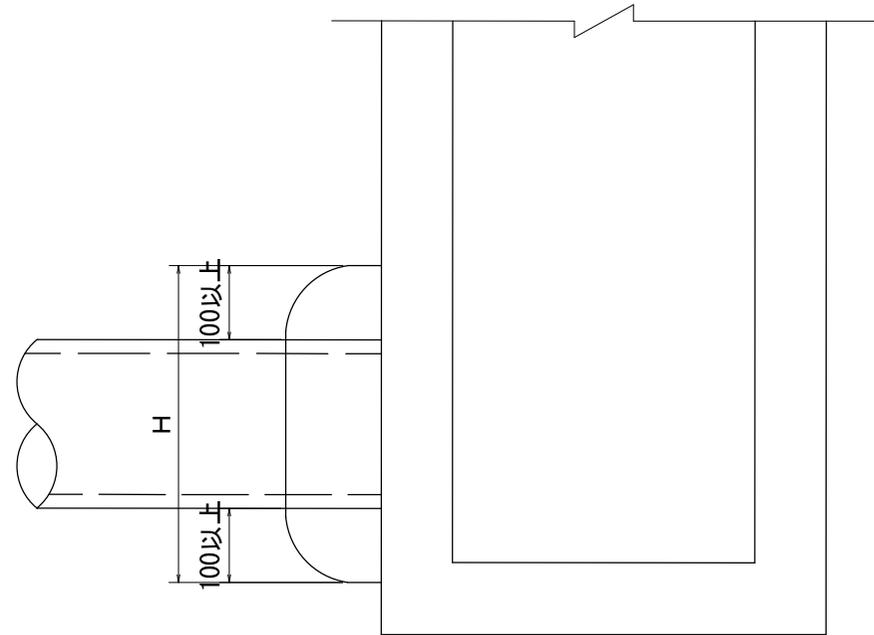
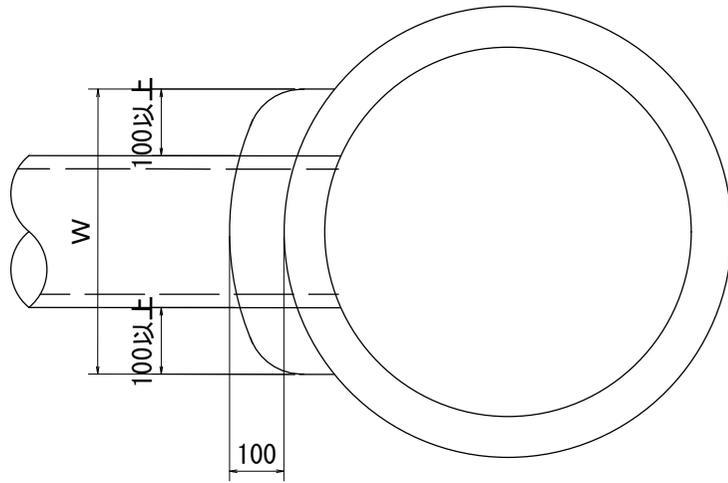


運用基準

1. インバーステップ部分は、ほぼフラットで仕上ること。

分類	マンホール設置工	図番	II-16
図名	インバーステップ設置標準図		

# 断面図



組立マンホールコーキング工

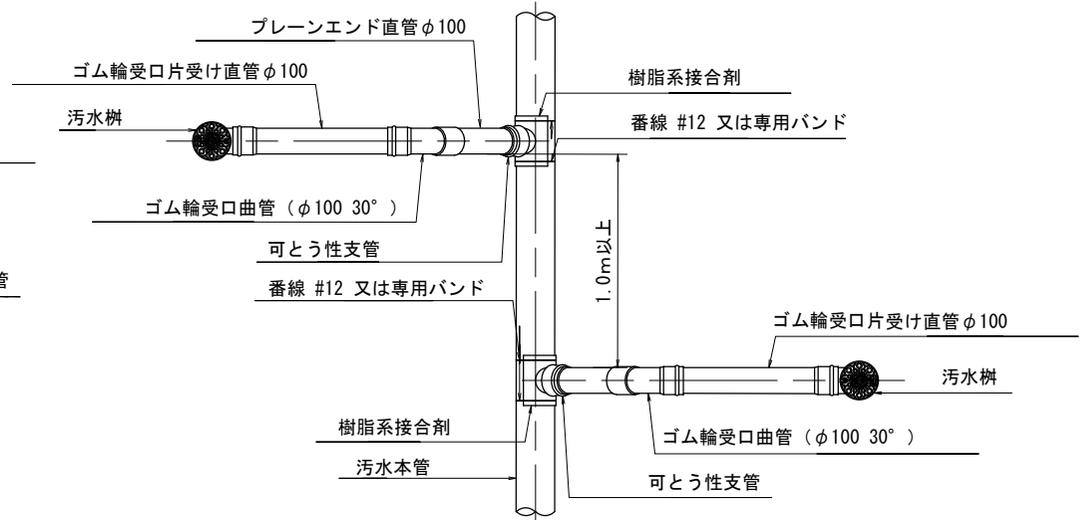
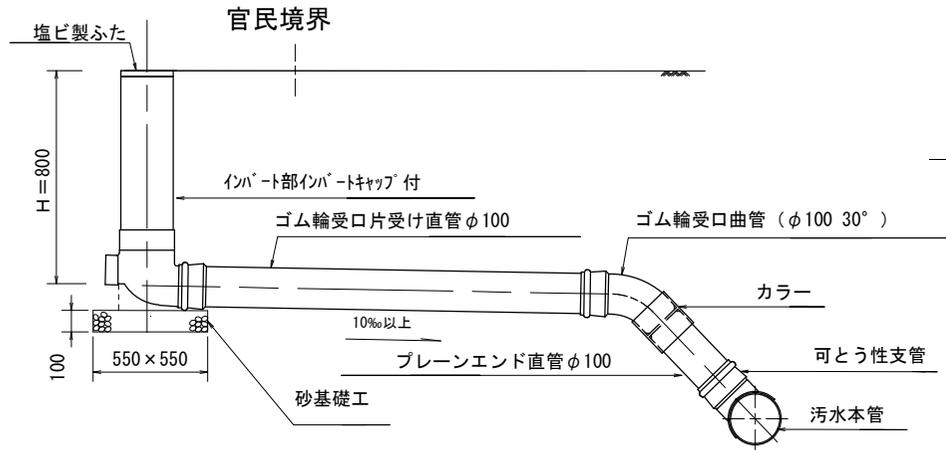
種目 管種	コーキング幅 W (mm)	コーキング高 H (mm)	モルタル (m3)	種目 管種	コーキング幅 W (mm)	コーキング高 H (mm)	モルタル (m3)
150	500	500	0.016	400	700	700	0.024
200	500	500	0.016	450	750	750	0.027
250	550	550	0.019	500	800	800	0.029
300	600	600	0.020	600	900	900	0.033
350	650	650	0.022				

分類	マンホール設置工	図番	Ⅱ-17
図名	組立マンホールコーキング工		

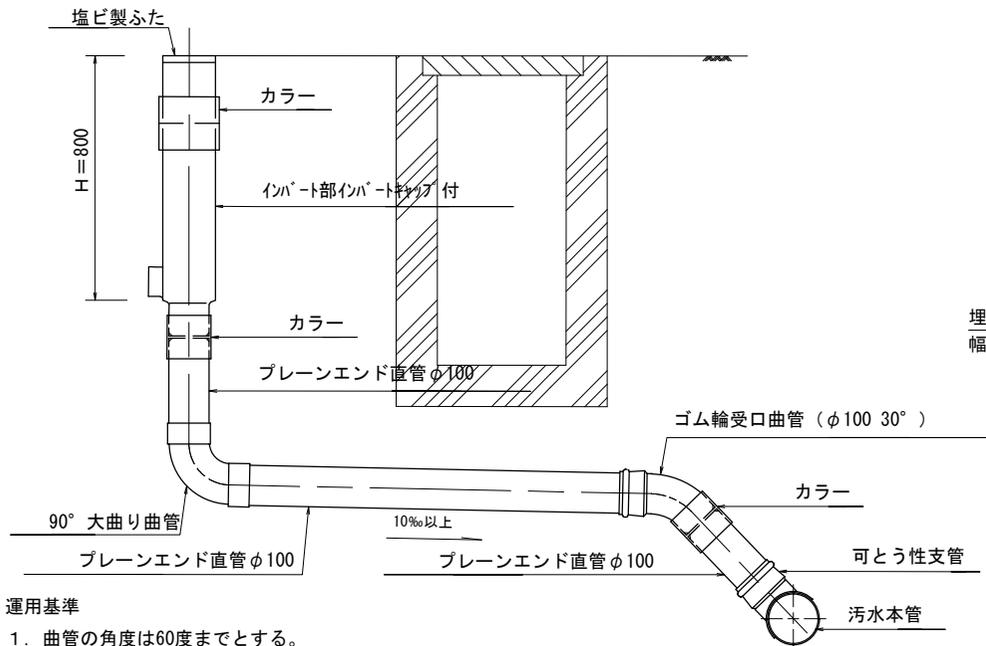
取付管及び取付ます設置工

横型

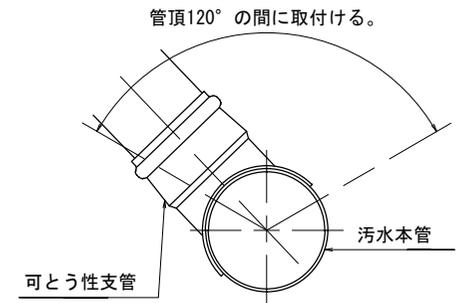
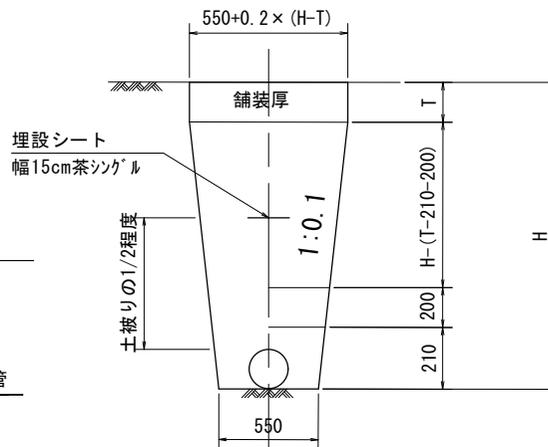
標準平面図



縦型



取付管部



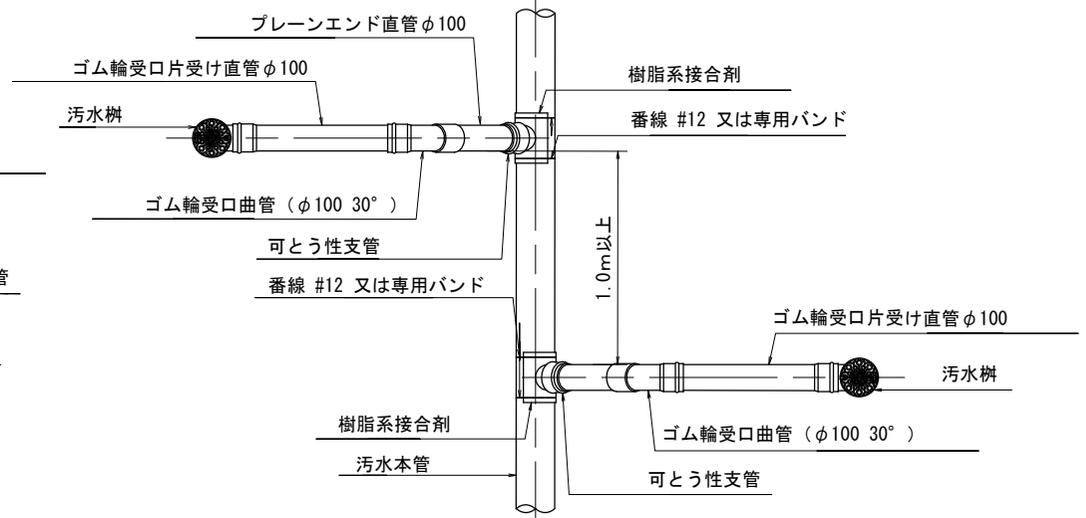
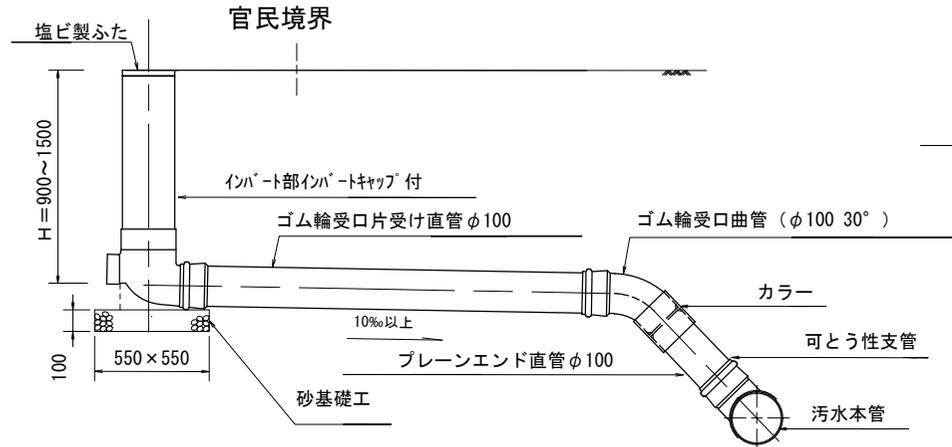
運用基準

1. 曲管の角度は60度までとする。
2. 曲管の使用は、最大2個までとする。
3. 本管接続の支管は、可とう性支管とする。
4. 本管（更生管（自立管））接続の支管は、更生用メカロック支管とする。

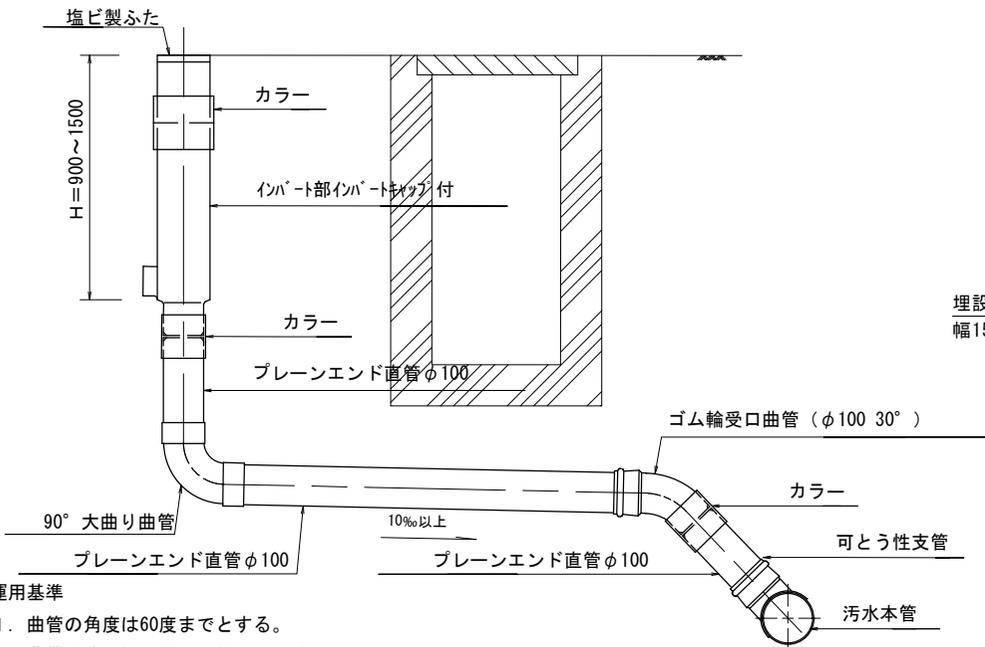
分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-1
図名	塩ビ取付管布設標準図（塩びます）H=0.8m		

横型

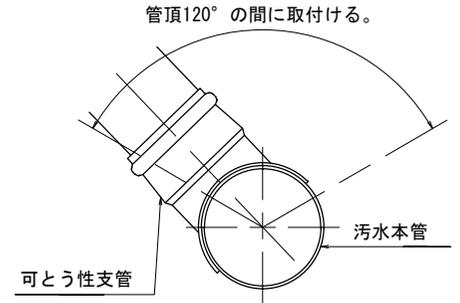
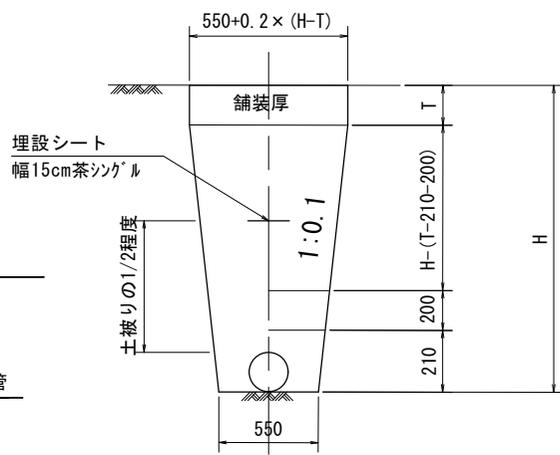
標準平面図



縦型



取付管部

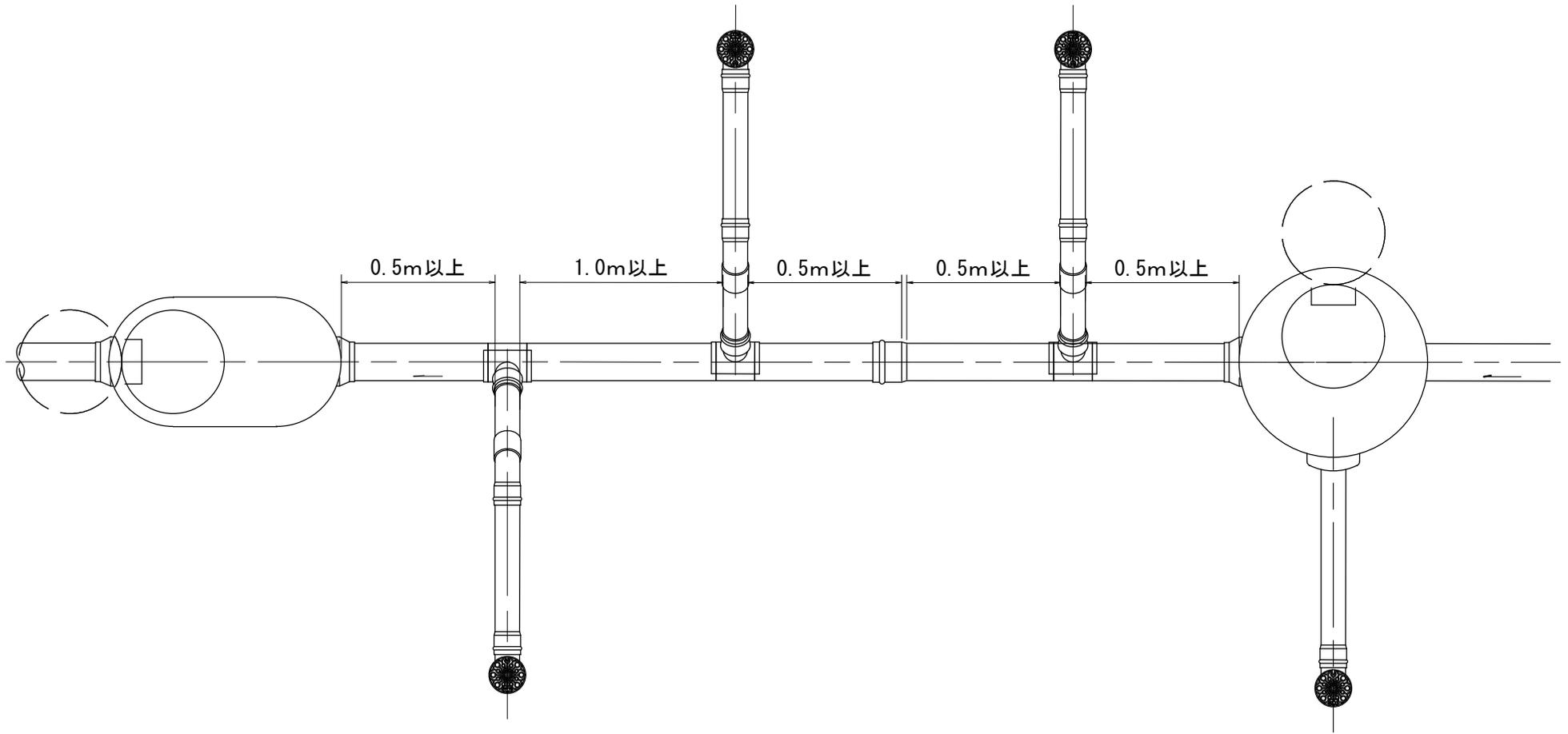


運用基準

1. 曲管の角度は60度までとする。
2. 曲管の使用は、最大2個までとする。
3. 本管接続の支管は、可とう性支管とする。
4. 本管（更生管（自立管））接続の支管は、更生用メカロック支管とする。

分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-2
図名	塩ビ取付管布設標準図（塩ビます）H=0.9~1.5m		

# 平面図

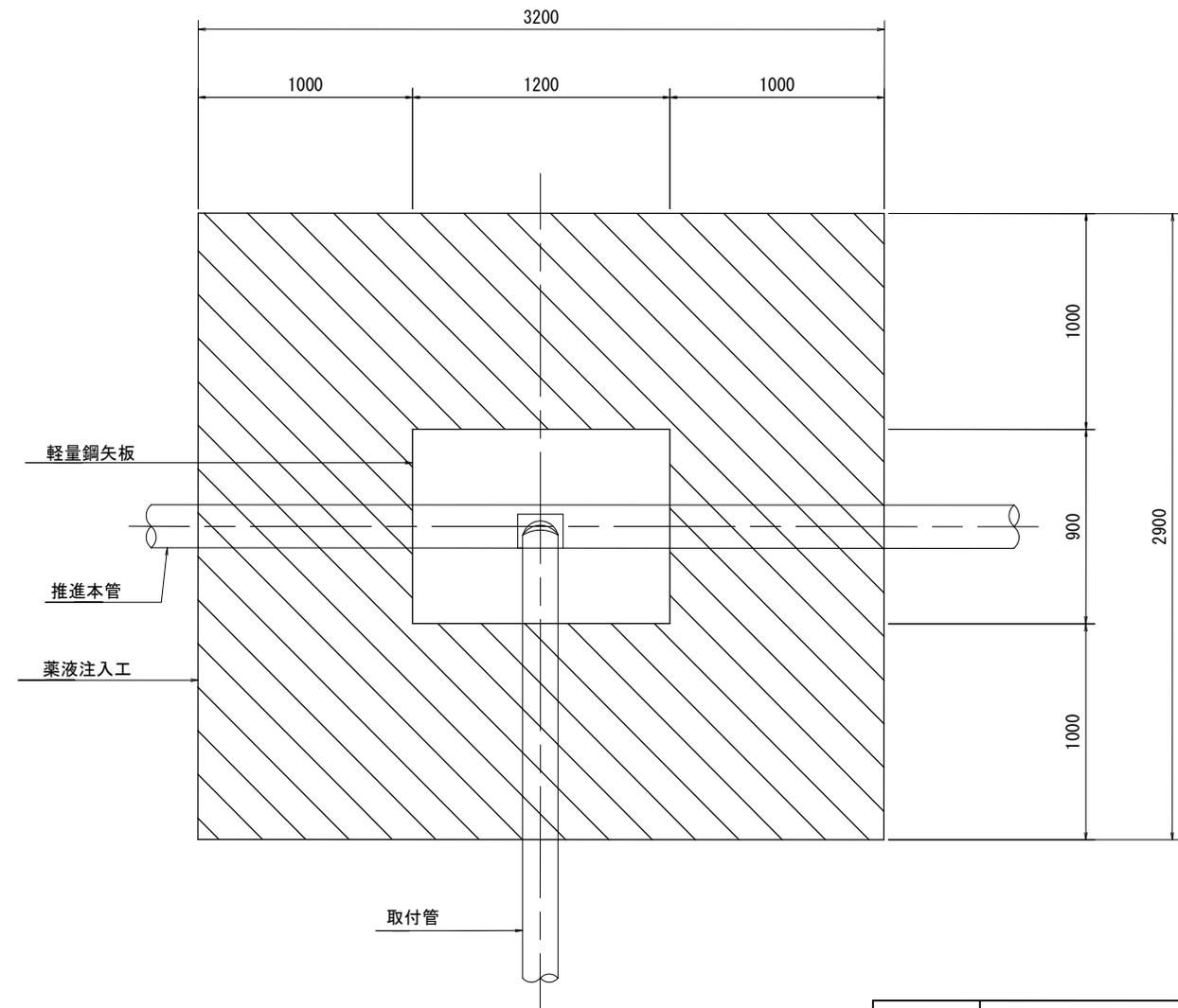


### 運用基準

1. 本管及び取付管部について埋設シート（茶色）を布設すること。

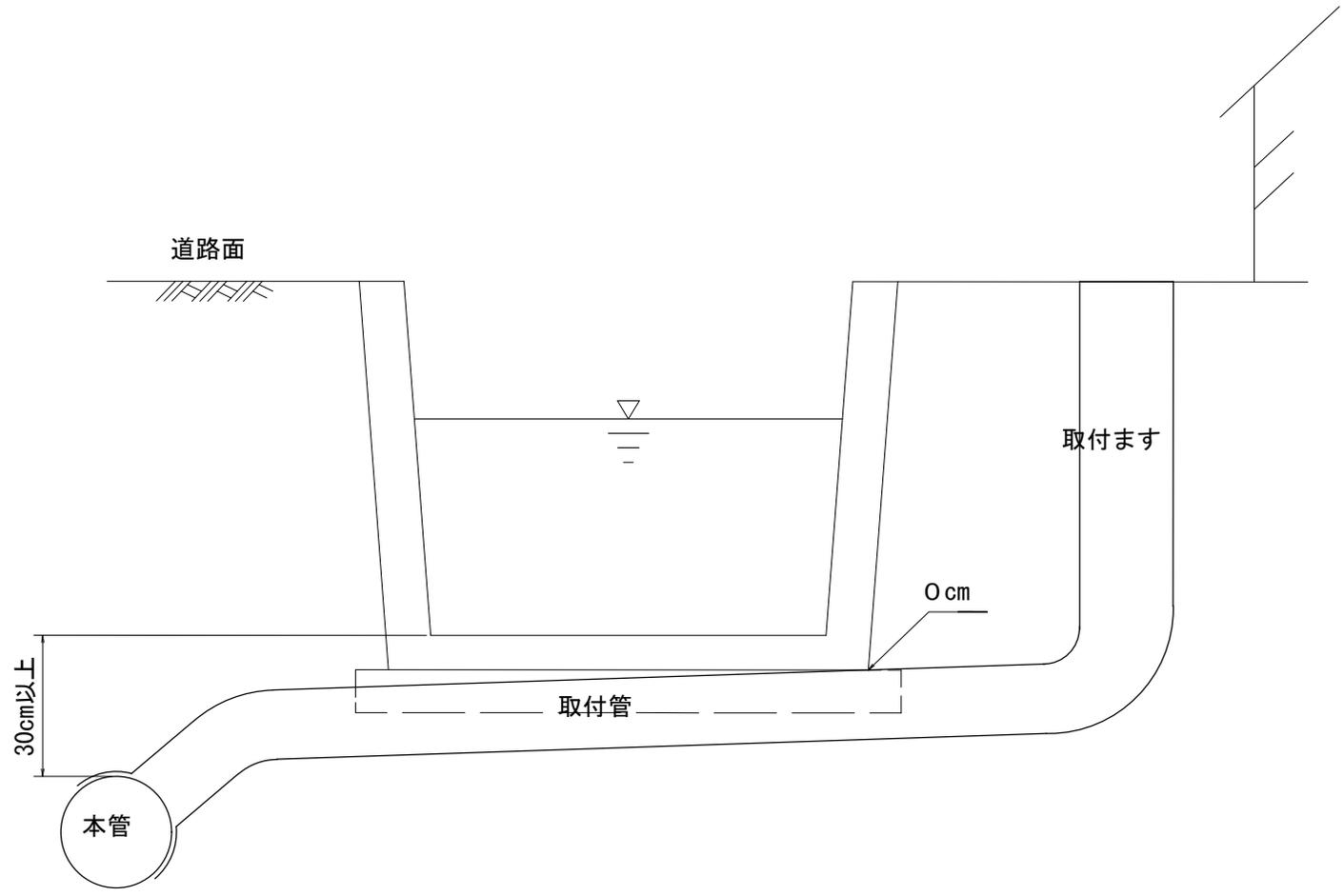
分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-3
図名	塩ビ取付管布設標準図		

# 平面図



分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-4
図名	(推進管) 取付管掘削定規図		

### 横断面図

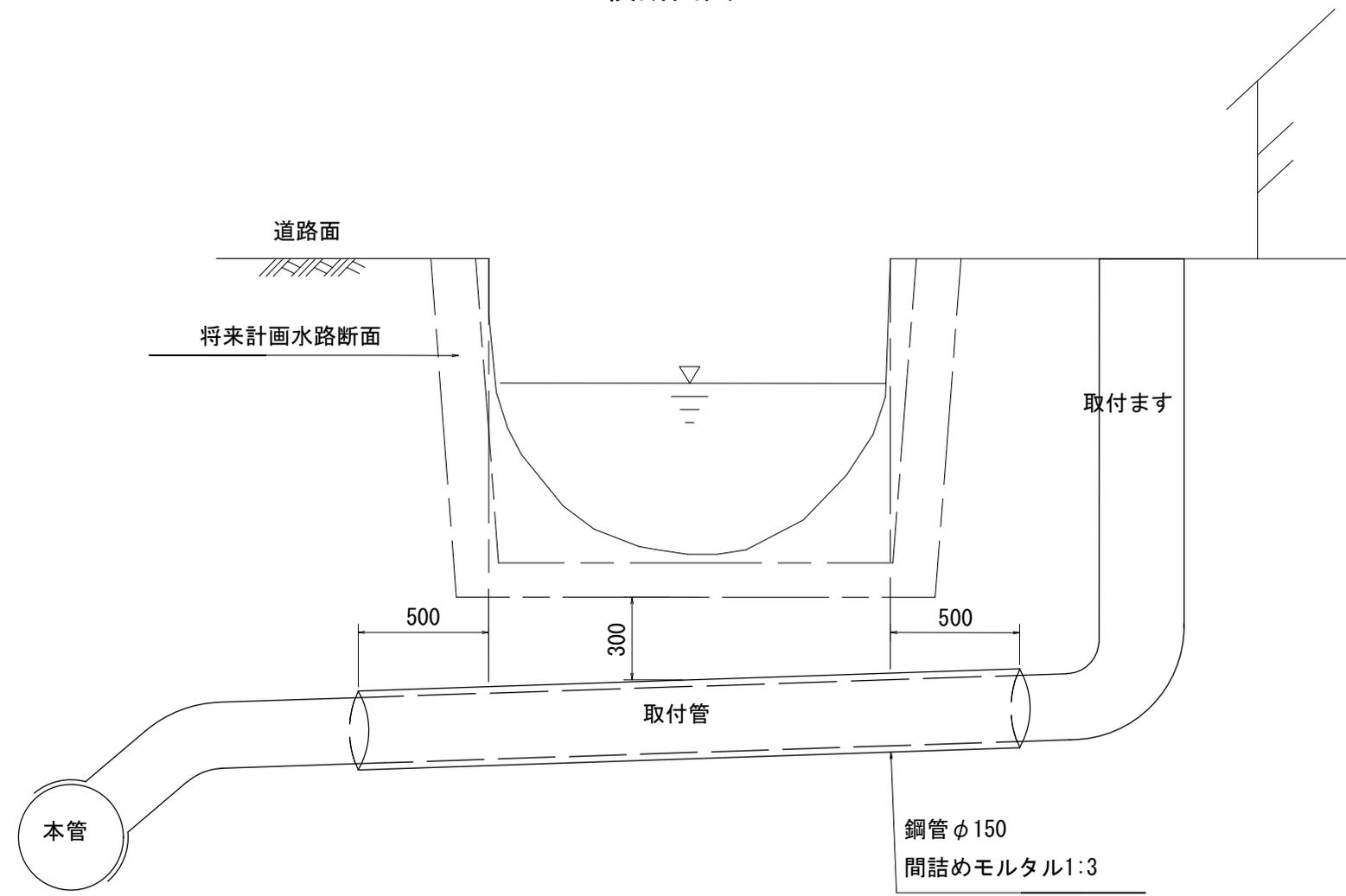


運用基準

- 1. 底張りの下0cmで実施し本管土被りは底張りより30cm以上とする。

分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-5
図名	水路下クリアランス標準図(改良部)		

### 横断面図

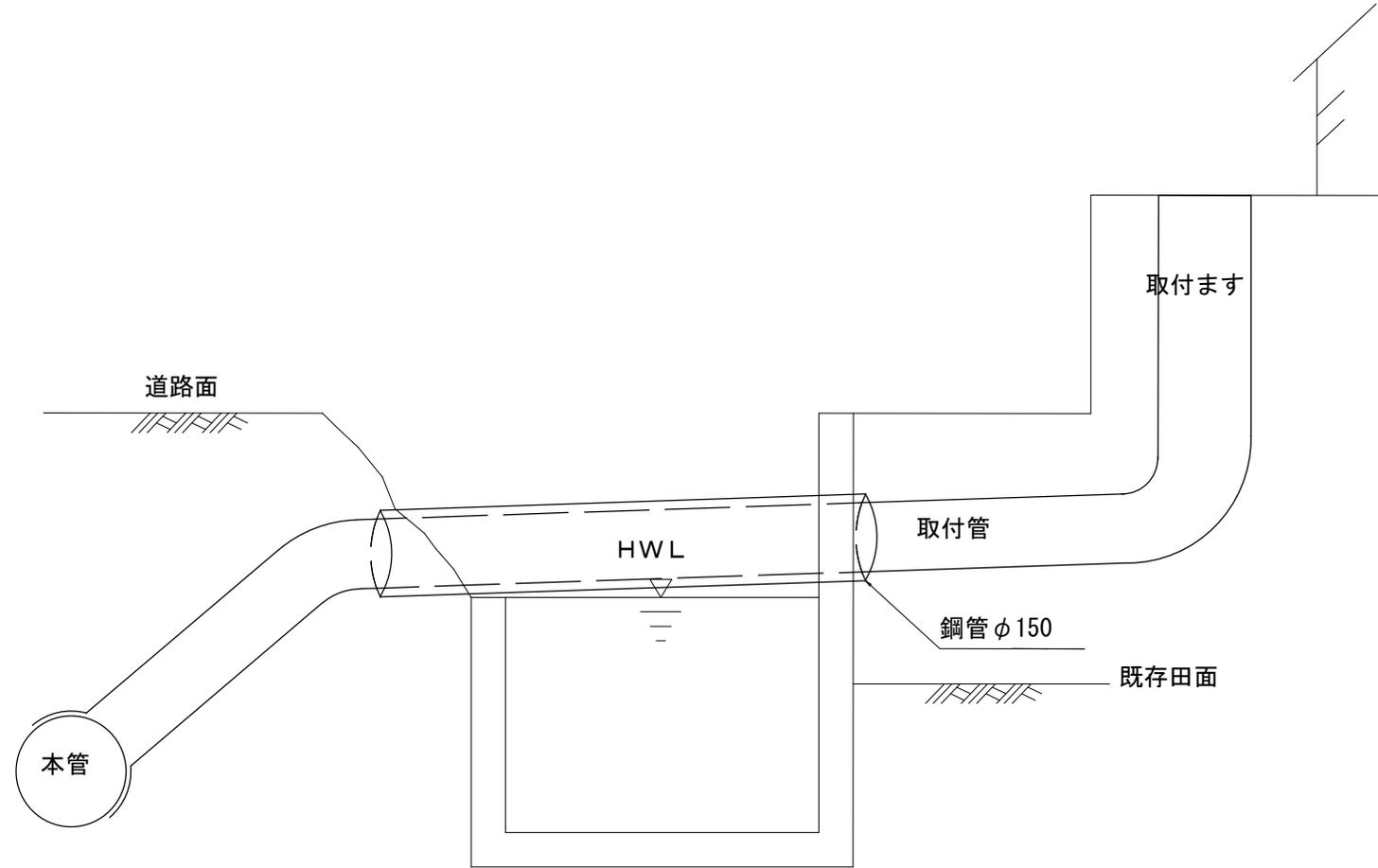


#### 運用基準

- 1. 水路管理者と計画高を協議し決定すること。計画がなければ前後の橋梁か水門の底張り高さを参考に決定する。

分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-6
図名	水路下クリアランス標準図 (未改良部)		

### 横断面図

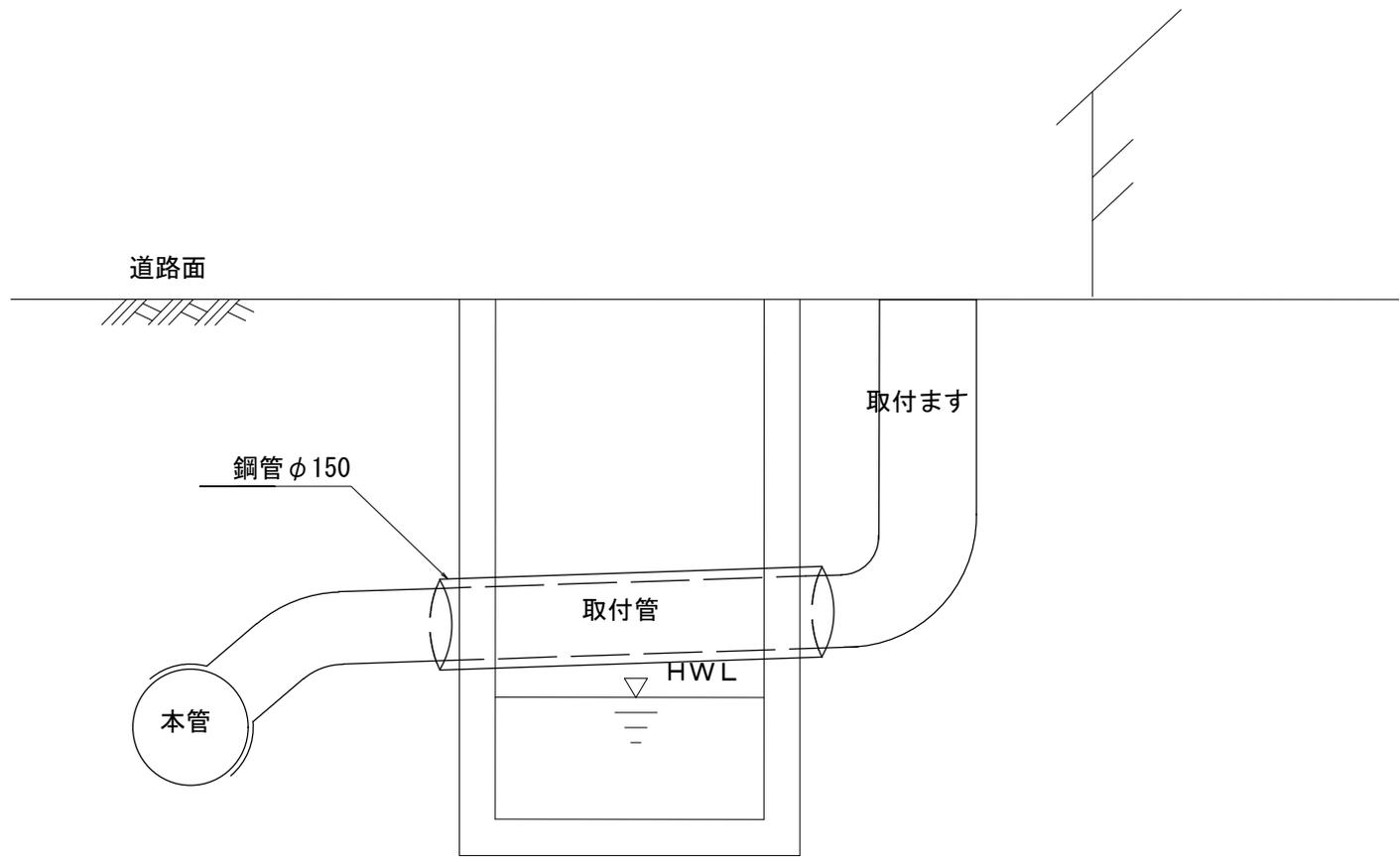


運用基準

- 1. 計画前に水路管理者と農業土木委員に協議し決定すること。

分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-7
図名	水路中空横断標準図		

### 横断面図



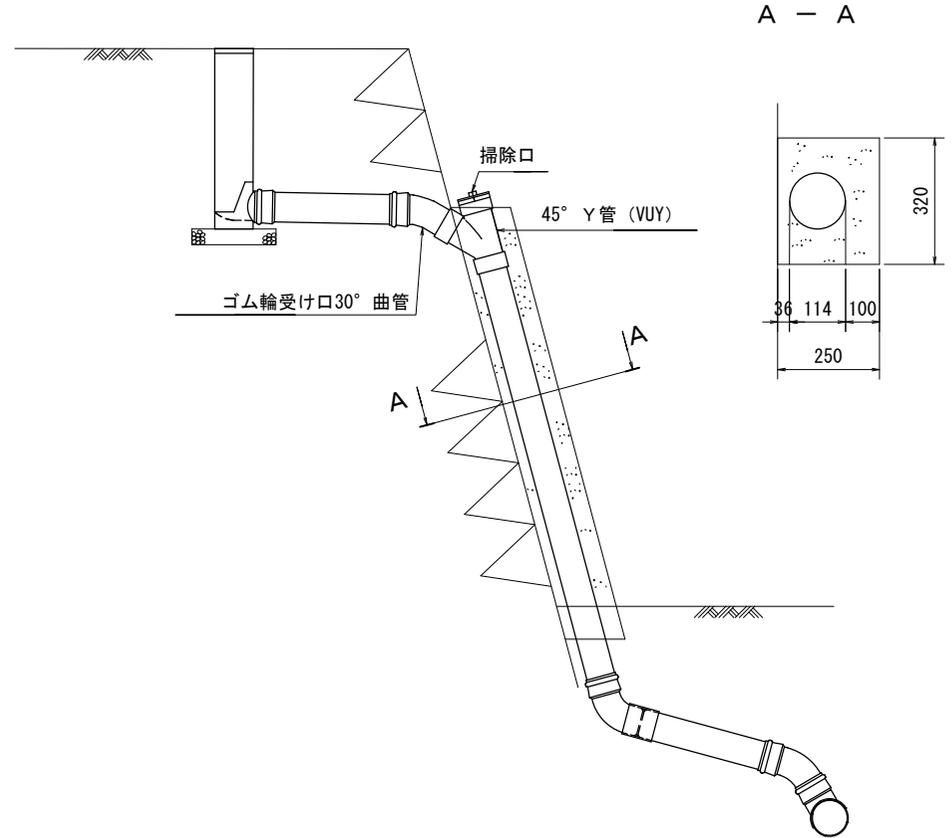
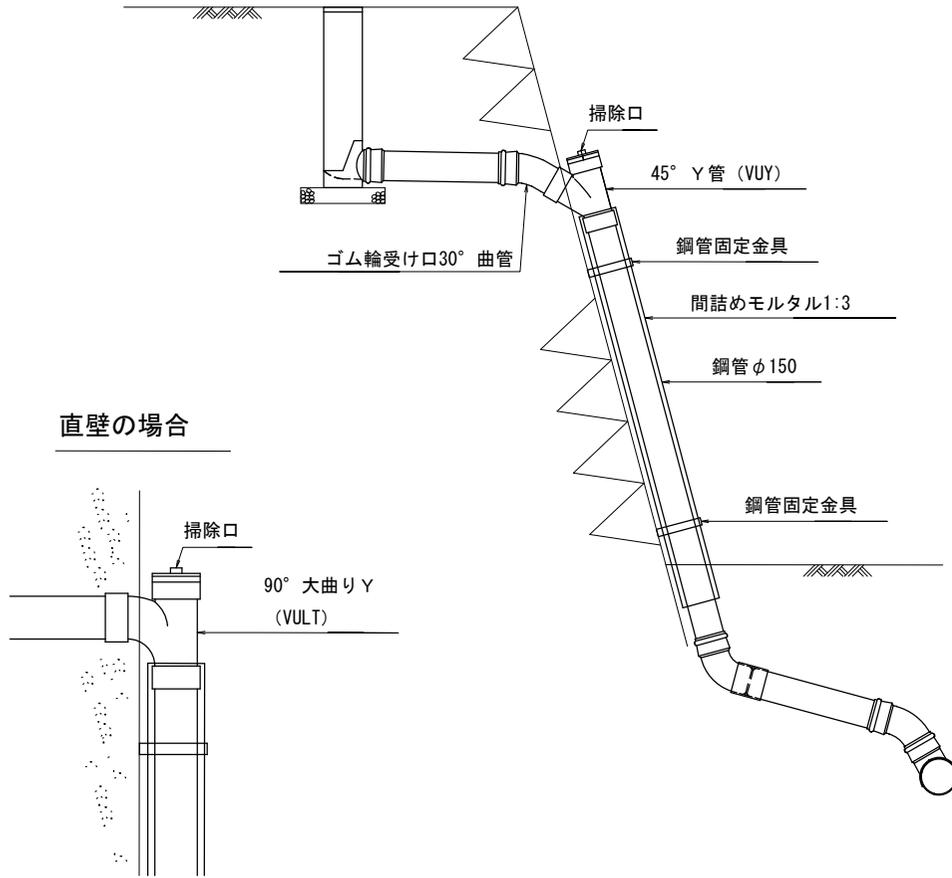
#### 運用基準

1. 計画前に道路管理者と農業土木委員に協議し決定すること。
2. 農地がある場合は用排水として利用されているので底面に管をつけると排水の支障になるので中空を横断する。

分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-8
図名	側溝中空横断標準図		

### 鋼管防護

### コンクリート防護



#### 運用基準

1. 埋設配管での施工を標準とするが、高低差が大きく施工が困難な場合は露出配管で施工する。

分類	取付管及び取付ます設置工	図番	Ⅲ-9
図名	露出配管標準図		